MySQL 8.0 の薄い本

hmatsu47 著

はじめに

本書の目的

「MySQL 5.7 より最大 2 倍高速」と Oracle がアナウンスしている MySQL 8.0 を取り上げた本で t^{*1} 。

2016 年 9 月に MySQL 8.0.0 がはじめてリリースされ、2018 年 4 月リリースの MySQL 8.0.11 から GA^{*2} となり、MySQL 8.0 も徐々にプロダクトへの採用事例が増えてきました。その間、公式リファレンスマニュアル *3 ・MySQL Server Team による MySQL Server Blog *4 のほか MySQL パートナーや個人のブログに MySQL 8.0 の新機能を紹介する記事が多数掲載されており、今もその数を増やしています。

この「MySQL~8.0~の薄い本」では、MySQL~8.0~で導入された新機能をページ数の制約(および著者の能力)の範囲でできるだけ取り上げるとともに、紹介記事の URL を提供します*5。

想定読者

MySQL~5.7までのバージョンの利用経験があり、MySQL~8.0の新機能に興味がある方です。なお、この本では従来の MySQL について丁寧な説明は行いません。はじめて MySQL に触れる方は、まず MySQL 5.7 までの入門書・解説書などを読んで MySQL を実際に起動・操作し、全体像を掴んでおくことをお勧めします。

ライセンスについて

この作品(本書)は、クリエイティブ・コモンズの 表示 - 継承 4.0 国際 ライセンスで提供されています。 ライセンスの写しをご覧になるには、http://creativecommons.org/licenses/by-sa/4.0/をご覧頂くか、 Creative Commons, PO Box 1866, Mountain View, CA 94042, USA までお手紙をお送りください。 なお、追加の条件として以下 1 点のみ遵守をお願いします。

• 原著者名 (hmatsu47) とあわせて、原書名 (MvSQL 8.0 の薄い本) を明示すること*6

^{*1} 性能・パフォーマンスについて知るには、MySQL 界隈で「ベンチマークおじさん」として有名? な Dimitri さんのブログや資料がお勧めです。「日本の Dimitri (おじ) さん」こと@i_rethi さんによるこちらの解説記事をご確認ください。http://hiroi10.hatenablog.com/entry/2018/12/24/000138

^{*2} General Availability

^{*3} https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/

^{**4} https://mysqlserverteam.com 一部日本語記事あり。また、Yakst | 人力翻訳コミュニティ https://yakst.com/ja に 日本語訳されている記事もあります。

 $^{^{*5}}$ URL を入力するのは面倒なので、各章末に関連リンク集への QR コードを掲載します。

^{*6} 情報の出所がわからなくなることを避けるため

商標について

- Oracle と Java、JavaScript、JDK および MySQL は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。文中の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります*7。
- その他記載の会社名、製品名等は、それぞれの会社・組織の商標もしくは登録商標です。

その他免責事項、制限事項等

- 本書記載の内容は無保証です。本書の利用により生じた一切の損害等を著者は負わないものとします。
- 本書記載の内容は著者個人の調査等によるものであり、所属する組織とは無関係です。
- 本書の内容は2019年8月現在の情報をもとに構成しています。
 - MySQL 8.0 は Continuous Delivery Model (継続提供モデル) を採用しており、マイナーバージョンが上がるごとに機能が追加されていくことが想定されています。
 - 本書で紹介する機能は途中のマイナーバージョンで追加・変更されたものを含みますが、煩雑になるため追加・変更されたマイナーバージョンは原則として記載しません。
- 本書の内容に誤りや記載 URL のリンク切れ、不適切な URL 等が見つかった場合は、こちらにご連絡ください。

- E-Mail: hmatsu47@gmail.com

- Twitter: @hmatsu47

謝辞

本書のレビューを快く引き受けてくださった@taka_yuki_04 さん、また執筆中に進捗を見守ってくださった MvSQL ユーザ会界隈*8やその他の皆様、ありがとうございました。

リンク集 URL



 \boxtimes 1: https://hmatsu47.hatenablog.com/book_mysql80_001

 $^{^{*7}\ \}mathrm{https://www.oracle.com/jp/legal/trademarks.html}$

^{*8} 若い方もいらっしゃるので、「MySQL おじさん」の括りではありません。

目次

はじめに		3
本書の)目的	3
想定読	渚	3
ライセ	: シスについて	3
	:ついて	
その他	2免責事項、制限事項等	4
		4
	集 URL	
第1章	MySQL 8.0 のインストールと設定パラメータ	9
1.1	新規インストール	9
	1.1.1 Dedicated Server Mode	13
1.2	アップグレードインストール	14
	1.2.1 インプレースアップグレード	14
	1.2.2 mysqldump →新環境へのリストアを行う場合の注意点	15
	1.2.3 レプリケーションを利用するアップグレードの注意点	15
	1.2.4 Upgrade Checker	15
	1.2.5 データディクショナリの InnoDB 化	18
1.3	設定パラメータ・起動パラメータの変更	18
	1.3.1 対象となるサーバ設定パラメータ・起動パラメータ	18
	1.3.2 その他の変更点	19
1.4	キーワードと予約語	20
1.5	キャラクタセットと照合順序	20
1.6	リンク集 URL	22
第2章	ユーザ管理・認証・権限設定の変更と新機能	23
2.1	認証プラグイン	23
2.2	ユーザ・パスワードと権限の管理	25
	2.2.1 ユーザアカウントごとに 2 つのアクティブパスワードをサポート	25
	2.2.2 その他のユーザ・パスワード管理、権限管理に関わる変更点	25
2.3	yaSSL から OpenSSL に移行し動的リンク化	27
2.4	ロール	27
2.5	リンク集 URL	29
第3章	DDL と管理用 SQL の新機能	31

3.1	DDL	31
	3.1.1 インスタント DDL	31
	3.1.2 カラムのデフォルト値指定の拡張(関数・式の利用)	32
	3.1.3 不可視インデックス	33
	3.1.4 降順インデックス	35
	3.1.5 関数・式インデックス	36
	3.1.6 主キーのないテーブルの禁止(sql_require_primary_key)	37
	3.1.7 CHECK 制約	38
	3.1.8 その他の DDL 新機能	38
3.2	管理用 SQL	39
	3.2.1 RESTART ステートメント	39
	3.2.2 SET PERSIST ステートメント	39
3.3	リンク集 URL	40
第4章	CTE とウィンドウ関数	41
4.1	CTE (Common Table Expressions)	41
4.2	ウィンドウ関数(Window Function)	44
4.3	リンク集 URL	48
第5章	JSON とオブジェクトストアの新機能	49
5.1	JSON 関数	49
5.2	X DevAPI とドキュメントストア	51
	5.2.1 X DevAPI の機能向上	51
	5.2.2 コード例/ MySQL Connector/J 8.0 を使ったドキュメントストアの利用	52
5.3	その他の JSON 新機能	54
5.4	リンク集 URL	55
第6章	GIS(地理情報システム)の新機能	57
6.1	GIS 関数	57
6.2	その他の GIS 新機能	63
6.3	リンク集 URL	64
第7章	レプリケーションの新機能	65
7.1	バイナリログ/リレーログ暗号化	65
	7.1.1 実行例	65
7.2	バイナリログ有効期限の指定方法変更	68
7.3	InnoDB Cluster	68
7.4	グループレプリケーション	69
	7.4.1 グループレプリケーションの新機能	70
7.5	MySQL Router	72
	7.5.1 MySQL Router の新機能	73
7.6	MySQL Shell	74
7.7	その他のレプリケーション新機能・変更	75
7.8	リンク集 URL	78

第8章	オプティマイザと InnoDB の新機能	79
8.1	オプティマイザ	79
	8.1.1 ヒストグラム	79
	8.1.2 メモリとディスクの I/O コスト	80
	8.1.3 FORCE INDEX 時に不要なインデックスダイブを回避	80
	8.1.4 ヒント句	80
	8.1.5 Skip Scan Range Access Method	81
8.2	InnoDB	82
	8.2.1 新しいロック:NOWAIT / SKIP LOCKED	82
	8.2.2 ノンロッキング並列読み取り	82
	8.2.3 AUTO_INCREMENT 値の永続化	83
	8.2.4 テーブルスペース/ Redo・Undo ログ/一般テーブルスペース/システムテーブ	
	ルの暗号化	83
	8.2.5 その他の InnoDB 新機能	85
8.3	リンク集 URL	87
第9章	Information Schema・Performance Schema の変更と新機能	89
9.1	Information Schema	89
	9.1.1 全般	89
	9.1.2 データディクショナリテーブルと INFORMATION_SCHEMA 内テーブルの統合	89
	9.1.3 新規追加テーブル	89
	9.1.4 その他の Information Schema 変更	90
9.2	Performance Schema	90
	9.2.1 InnoDB ロック関連テーブル等	90
	9.2.2 高速化について	97
	9.2.3 新規追加テーブル	97
	9.2.4 Performance Schema のビルトイン SQL 関数	97
	9.2.5 その他の Performance Schema 変更	98
9.3	その他の変更と新機能....................................	98
	9.3.1 SHOW ステートメント	98
9.4	リンク集 URL	98
第 10 章	その他の変更と新機能	99
10.1	リソースグループ	99
10.2	DML の新機能	99
	10.2.1 ORDER BY 句/ DICTINCT 句と WITH ROLLUP の併用・GROUPING()	99
	10.2.2 LATERAL 句	100
	10.2.3 派生 (Derived) テーブルからの外部テーブル参照	100
10.3	関数の変更と新機能・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	100
	10.3.1 正規表現関数	100
	10.3.2 STATEMENT_DIGEST() / STATEMENT_DIGEST_TEXT()	101
	10.3.3 その他の関数	101
10.4	その他各種新機能	101

目次

リンク	集 URL
おわりに	107
10.5	リンク集 URL
	10.4.5 その他の変更と新機能
	10.4.4 ログ関連(エラーログ以外)
	10.4.3 エラーロギング
	10.4.2 新しいメモリ内テンポラリテーブルストレージエンジン 101
	10.4.1 Query Rewrite プラグイン

第1章

MySQL 8.0 のインストールと設定パラ メータ

1.1 新規インストール

新規インストールについては公式リファレンスマニュアルに手順が記載されており、基本的には MySQL 5.7 とほぼ同じです。

公式リファレンスマニュアル

• https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/installing.html

実行例

参考として、CentOS 7 に新規インストールする場合の例を示しておきます。

```
[\verb|root@mysql80cent| ~] \# \textit{wget http://dev.mysql.com/get/mysql80-community-release-el7-2.noarch.rpm| } \\
※ダウンロードするバージョン (e17-2) はその時点のものを指定
--2019-08-01 21:22:26-- http://dev.mysql.com/get/mysql80-community-release-el7-2.noarch.rpm
(中略)
HTTP request sent, awaiting response... 200 OK
Length: 25892 (25K) [application/x-redhat-package-manager]
Saving to: 'mysql80-community-release-el7-2.noarch.rpm'
100%[======>] 25,892
                                                --.-K/s in 0.001s
2019-08-01 21:22:27 (233 MB/s) - 'mysql80-community-release-el7-2.noarch.rpm' saved [25892/25
[root@mysql80cent ~]# yum localinstall mysql80-community-release-el7-2.noarch.rpm
Loaded plugins: fastestmirror
Dependencies Resolved
                 Arch Version
                            Repository
                                                                 Size
______
Installing:
```

```
mysq180-community-release
                 noarch el7-2 /mysql80-community-release-el7-2.noarch 31 k
Transaction Summary
______
Install 1 Package
Total size: 31 k
Installed size: 31 k
Is this ok [y/d/N]: y
Downloading packages:
(中略)
Installed:
 mysql80-community-release.noarch 0:e17-2
[root@mysql80cent ~]# yum update mysql-community-libs
※ mariadb-libs を mysql-community-libs で置き換える
Loaded plugins: fastestmirror
(中略)
Dependencies Resolved
_____
                       Arch Version Repository Size
______
Installing:
mysql-community-libs
                       x86_64 8.0.17-1.el7
                                             mysq180-community 3.0 M
    replacing mariadb-libs.x86_64 1:5.5.60-1.el7_5
mysql-community-libs-compat x86_64 8.0.17-1.el7
                                             mysq180-community 2.1 M
    replacing mariadb-libs.x86_64 1:5.5.60-1.el7_5
Installing for dependencies:
mysql-community-common x86_64 8.0.17-1.el7 mysql80-community 589 k
Transaction Summary
______
Install 2 Packages (+1 Dependent package)
Total download size: 5.7 M
Is this ok [y/d/N]: y
Downloading packages:
warning: /var/cache/yum/x86_64/7/mysq180-community/packages/mysq1-community-common-8.0.17-1.el
7.x86_64.rpm: Header V3 DSA/SHA1 Signature, key ID 5072e1f5: NOKEY
Public key for mysql-community-common-8.0.17-1.el7.x86_64.rpm is not installed
(1/3): mysql-community-common-8.0.17-1.el7.x86_64.rpm | 589 kB 00:00
(2/3): mysql-community-libs-compat-8.0.17-1.el7.x86_64.rpm | 2.1 MB 00:00
(3/3): mysql-community-libs-8.0.17-1.el7.x86_64.rpm | 3.0 MB 00:00
Total
                                           19 MB/s | 5.7 MB 00:00
Retrieving key from file:///etc/pki/rpm-gpg/RPM-GPG-KEY-mysql
Importing GPG key 0x5072E1F5:
        : "MySQL Release Engineering <mysql-build@oss.oracle.com>"
Fingerprint: a4a9 4068 76fc bd3c 4567 70c8 8c71 8d3b 5072 e1f5
Package : mysq180-community-release-e17-2.noarch (installed)
         : /etc/pki/rpm-gpg/RPM-GPG-KEY-mysql
Is this ok [y/N]: y
Running transaction check
(中略)
```

```
Installed:
 mysql-community-libs.x86_64 0:8.0.17-1.el7
 mysql-community-libs-compat.x86_64 0:8.0.17-1.el7
Dependency Installed:
 mysql-community-common.x86_64 0:8.0.17-1.el7
Replaced:
 mariadb-libs.x86_64 1:5.5.60-1.el7_5
Complete!
[root@mysql80cent ~]# yum install mysql-community-client
※クライアントをインストールする
Loaded plugins: fastestmirror
(中略)
Dependencies Resolved
_______
        Arch Version Repository Size
______
Installing:
mysql-community-client x86_64 8.0.17-1.el7 mysql80-community 32 M
Transaction Summary
______
Install 1 Package
Total download size: 32 M
Installed size: 146 M
Is this ok [y/d/N]: y
Downloading packages:
(中略)
Installed:
 mysql-community-client.x86_64 0:8.0.17-1.el7
Complete!
[root@mysql80cent ~]# yum install mysql-community-server
※サーバをインストールする
Loaded plugins: fastestmirror
(中略)
Dependencies Resolved
______
        Arch Version Repository Size
Package
______
Installing:
mysql-community-server x86_64 8.0.17-1.el7 mysql80-community 415 M
Installing for dependencies:
                x86_64 0.3.109-13.el7 base
libaio
                                                  24 k
Transaction Summary
______
Install 1 Package (+1 Dependent package)
Total download size: 415 M
Installed size: 1.8 G
Is this ok [y/d/N]: y
```

```
Downloading packages:
 (中略)
Installed:
 mysql-community-server.x86_64 0:8.0.17-1.el7
Dependency Installed:
 libaio.x86 64 0:0.3.109-13.el7
Complete!
[root@mysql80cent ~]# systemctl enable mysqld.service
※自動起動 ON
[root@mysql80cent ~]# systemctl start mysqld.service
[root@mysql80cent ~]# ps aux / fgrep mysqld
         1473 6.6 9.9 1840000 386416 ?
                                             Ssl 21:28 0:00 /usr/sbin/mysqld
         1519 0.0 0.0 112708 896 pts/0
                                          S+ 21:28 0:00 grep -F --color=auto mysqld
[root@mysql80cent ~]# fgrep assword /var/log/mysqld.log
※ログからサーバ初期パスワードを確認
2019-08-01T13:28:24.166457Z 5 [Note] [MY-010454] [Server] A temporary password is generated
for root@localhost: OzNQm*kwta-n
```

mysql_secure_installation も使えます。

 $\bullet \ https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/mysql-secure-installation.html$

```
[root@mysql80cent ~]# mysql_secure_installation
Securing the MySQL server deployment.
Enter password for user root: 先ほど確認したサーバ初期パスワードを入力
The existing password for the user account root has expired. Please set a new password.
New password:新しいパスワードを入力
Re-enter new password:同じパスワードを入力
The 'validate_password' component is installed on the server.
The subsequent steps will run with the existing configuration
of the component.
Using existing password for root.
Estimated strength of the password: 100
Change the password for root ? ((Press y|Y for Yes, any other key for No) : n
 ... skipping.
By default, a MySQL installation has an anonymous user,
allowing anyone to log into MySQL without having to have
a user account created for them. This is intended only for
testing, and to make the installation go a bit smoother.
You should remove them before moving into a production
environment.
Remove anonymous users? (Press y|Y for Yes, any other key for No) : y
```

```
Success.
Normally, root should only be allowed to connect from
'localhost'. This ensures that someone cannot guess at
the root password from the network.
Disallow root login remotely? (Press y|Y for Yes, any other key for No) : y
Success.
By default, MySQL comes with a database named 'test' that
anyone can access. This is also intended only for testing,
and should be removed before moving into a production
environment.
Remove test database and access to it? (Press y|Y for Yes, any other key for No) : y
 - Dropping test database...
Success.
 - Removing privileges on test database...
Success.
Reloading the privilege tables will ensure that all changes
made so far will take effect immediately.
Reload privilege tables now? (Press y|Y for Yes, any other key for No) : y
Success.
All done!
```

1.1.1 Dedicated Server Mode

MySQL~5.7までは、リソースが乏しいサーバ環境でも動作するよう各種バッファ容量のデフォルト設定は小さめでした。MySQL~8.0では、MySQL 専用サーバとして設定する場合 Dedicated Server Mode によって、以下の項目の自動設定を行うことが可能です。

- innodb_buffer_pool_size
- innodb_log_file_size
- innodb_log_files_in_group
- innodb_flush_method

起動オプションとして--innodb-dedicated-server=ON を付けてサーバを起動することで自動設定されます。具体的な設定値は公式リファレンスマニュアル(以下の 1 つ目の URL)に記載されています。

公式リファレンスマニュアル

- $\bullet \ \ https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/innodb-dedicated-server.html$
- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/innodb-parameters.html# sysvar_innodb_dedicated_server

ブログ記事等

- https://yakst.com/ja/posts/4781
- https://www.s-style.co.jp/blog/2018/08/2281/

1.2 アップグレードインストール

アップグレードインストールする方法としては、

- インプレースアップグレードする方法
- 新環境を別途用意し、旧環境で mysqldump した内容をリストアする方法

の2つがあります。

- https://speakerdeck.com/yoshiakiyamasaki/20181201-mysqlbaziyonatupufalseji-chu-zhi-shi?slide=26

1.2.1 インプレースアップグレード

こちらの資料の 8~17 ページを参照してください(要 Oracle シングル・サインオンアカウント*1)。

• https://www.mysql.com/jp/why-mysql/presentations/mysql-80-upgrade-checker-201811-jp/

シンプルなケースにおけるインプレースアップグレードの流れ

- MySQL 5.7 系列の最新バージョンまでアップグレードする
- MySQL Shell 8.0 をインストールして Upgrade Checker (後述) を実行し、問題点を抽出する
- 問題となる設定やアプリケーションを修正する
 - 設定のうち、MySQL 8.0 で改名されたパラメータ等については--loose 接頭辞を付けると良い
- バックアップを取得する
- MvSQL Server 8.0 を上書きインストールして起動する
- 必要に応じてユーザと権限設定等を修正する
 - アプリケーションで使用するユーザを新規に作り直す場合、第2章で説明する認証プラグインの 指定に注意する
- 【注】MySQL~8.0.16 から $mysql_upgrade$ が不要になりました。
 - $\bullet \ \, https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/upgrading-what-is-upgraded.html$

なお、アップグレードインストール後、mysql_upgrade_infoファイルの所有者・アクセス権が原因でサーバ起動に失敗することがあります。

- https://blog.pinkumohikan.com/entry/could-not-start-mysql8-after-version-up
- https://mgng.mugbum.info/1542

^{*1} 無料で登録可能です。登録するとセミナー受講申し込みや、ホワイトペーパー・各種資料の閲覧等が可能になります。

【注】MvSQL 8.0 ではダウングレードがサポートされなくなっています。

• http://mita2db.blogspot.com/2019/07/mysql-80.html

1.2.2 mysqldump →新環境へのリストアを行う場合の注意点

MySQL 8.0 の仕様変更により、旧バージョンで取得したダンプファイルをリストアする際にエラーが発生する場合があります。

• https://hit.hateblo.jp/entry/MYSQL/MYSQL8/SETTING

個人的には、サーバ全体のダンプファイルを一括取得するのではなく、以下のようにするのが良いのでは ないかと考えています。

- ユーザは DB のデータとは別に移行する
 - -https://speakerdeck.com/yoshiakiyamasaki/20181201-mysqlbaziyonatupufalseji-chu-zhi-shi?slide=70
- DB のデータはスキーマ (DB) 別に分割して取得し、移行する
 - 意図しない情報まで新環境に引き継がないようにする

1.2.3 レプリケーションを利用するアップグレードの注意点

mysqldump \rightarrow 新環境へのリストアなどで移行する場合、システム停止時間の短縮のためにレプリケーションを利用する方法があります。ところが最近、レプリケーションにおいて複数バージョンが混在する場合のサポートポリシーが変わり、3 バージョン混在* 2 の環境がサポート外となりました* 3 。

• https://qiita.com/hmatsu47/items/2cfbb7dec89ce5ddd647

1.2.4 Upgrade Checker

MySQL 5.7 環境からのアップグレード時に互換性で問題になりそうな箇所を抽出するための Upgrade Checker があります。

前掲のこちらの資料 25~30 ページ

https://www.mysql.com/jp/why-mysql/presentations/mysql-80-upgrade-checker-201811-jp/

公式リファレンスマニュアル

• https://dev.mysql.com/doc/mysql-shell/8.0/en/mysql-shell-utilities-upgrade.html

ブログ記事等

• https://yakst.com/ja/posts/5190

 $^{*^2}$ マイナーバージョンであっても 3 バージョン混在はサポート外となります。

^{*3} サポート外ではありますが、必ずしも「できなくなった」わけではありません。

- https://gihyo.jp/dev/serial/01/mysql-road-construction-news/0076
- https://mysqlserverteam.com/mysql-shell-8-0-4-introducing-upgrade-checker-utility/

```
[root@mysql57to80 yum.repos.d]# yum-config-manager --disable mysql57-community
※ MySQL Shell 8.0 をインストールするため、MySQL 5.7 のリポジトリを無効にする
Loaded plugins: fastestmirror
----- repo: mysql57-community -----
[mysql57-community]
async = True
(中略)
username =
[root@mysq157to80 yum.repos.d]# yum-config-manager --enable mysq180-community
※ MySQL 8.0 のリポジトリを有効にする
Loaded plugins: fastestmirror
[root@mysql57to80 yum.repos.d]# yum install mysql-shell
※ MySQL Shell 8.0 をインストールする
Loaded plugins: fastestmirror
(中略)
Dependencies Resolved
______
       Arch Version
Package
                                      Repository
-----
Installing:
mysql-shell x86_64 8.0.17-1.el7 mysql-tools-community
Transaction Summary
______
Install 1 Package
Total download size: 15 M
Installed size: 50 M
Is this ok [y/d/N]: y
Downloading packages:
(中略)
Installed:
 mysql-shell.x86_64 0:8.0.17-1.el7
[root@mysql57to80 yum.repos.d] # mysqlsh -u root -S /var/lib/mysql/mysql.sock
Please provide the password for 'root@/var%2Flib%2Fmysql%2Fmysql.sock': パスワードを入力
Save password for 'root@/var%2Flib%2Fmysql%2Fmysql.sock'? [Y]es/[N]o/Ne[v]er (default No):
[Enter] キーを押す
MySQL Shell 8.0.17
(中略)
No default schema selected; type \use <schema> to set one.
MySQL localhost JS > util.checkForServerUpgrade()
The MySQL server at /var%2Flib%2Fmysql%2Fmysql.sock, version 5.7.27 - MySQL
Community Server (GPL), will now be checked for compatibility issues for
upgrade to MySQL 8.0.17...
```

- Usage of old temporal type
 No issues found
- 2) Usage of db objects with names conflicting with reserved keywords in 8.0 No issues found
- 3) Usage of utf8mb3 charset No issues found
- 4) Table names in the mysql schema conflicting with new tables in $8.0\,$ No issues found
- 5) Partitioned tables using engines with non native partitioning No issues found

(中略)

19) New default authentication plugin considerations

Warning: The new default authentication plugin 'caching_sha2_password' offers more secure password hashing than previously used 'mysql_native_password' (and consequent improved client connection authentication). However, it also has compatibility implications that may affect existing MySQL installations. If your MySQL installation must serve pre-8.0 clients and you encounter compatibility issues after upgrading, the simplest way to address those issues is to reconfigure the server to revert to the previous default authentication plugin (mysql_native_password). For example, use these lines in the server option file:

[mysqld]

default_authentication_plugin=mysql_native_password

However, the setting should be viewed as temporary, not as a long term or permanent solution, because it causes new accounts created with the setting in effect to forego the improved authentication security. If you are using replication please take time to understand how the authentication plugin changes may impact you.

More information:

 ${\tt https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/upgrading-from-previous-series.html\#upgrade-caching-sha2-password-compatibility-issues}$

 ${\tt https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/upgrading-from-previous-series.html\#upgrade-caching-sha2-password-replication}$

Errors: 0 Warnings: 1 Notices: 0

No fatal errors were found that would prevent an upgrade, but some potential issues were detected. Please ensure that the reported issues are not significant before upgrading.

MySQL localhost JS > \q

Bye!

■コラム: Upgrade Checker のチェック項目

Upgrade Checker はバージョンアップのたびにチェック項目が増えています。8.0.15 時点で 15 項目だったのが 8.0.17 では 19 項目になりました。また、8.0.16 からターゲットバージョンを指定してチェックすることができるようになりました。

なお、MySQL 5.5・5.6 からの移行で利用可能な非公式 Upgrade Checker (yoku0825 さん作) もあります。

• https://github.com/yoku0825/p5-mysql-upgrade-checker

ブログ記事等

- https://yoku0825.blogspot.com/2018/07/mysql-shellupgrade-checkerperl-5.html
- http://next4us-ti.hatenablog.com/entry/2018/12/05/085115

1.2.5 データディクショナリの InnoDB 化

前掲の資料にも説明がありましたが、MySQL 8.0 からデータディクショナリが InnoDB 化されました。トランザクション対応という触れ込みですが、今のところ DDL は基本的にトランザクション非対応です。

公式リファレンスマニュアル

• https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/data-dictionary.html

ブログ記事等

- https://mysqlserverteam.com/mysql-8-0-data-dictionary-architecture-and-design/
- $\bullet \ \, \text{https://lefred.be/content/mysql-8-0-data-dictionary-tables-and-why-they-should-stay-protected/} \\$

InnoDB テーブル作成時、以前は.ibd ファイルとともに.frm ファイルが生成されましたが、MySQL 8.0 では.frm ファイルは生成されません。

MySQL 5.7 からのインプレースアップグレード時、サーバを最初に起動したタイミングで変換が行われます。

1.3 設定パラメータ・起動パラメータの変更

以下を確認して、設定パラメータの変更を計画します。

前掲のこちらの資料 19~24 ページ

https://www.mysql.com/jp/why-mysql/presentations/mysql-80-upgrade-checker-201811-jp/
 特に非推奨化・廃止された機能(21~22ページ)に注意。sql_mode、アカウント管理など。

公式リファレンスマニュアル

- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/mysql-nutshell.html
- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/upgrading-from-previous-series.html

1.3.1 対象となるサーバ設定パラメータ・起動パラメータ

前述の資料で示されているもののほか、いくつか変更点があります(デフォルトの変更・廃止など)。

公式リファレンスマニュアル

• https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/added-deprecated-removed.html

公式サーババージョンリファレンス

• https://dev.mysql.com/doc/mysqld-version-reference/en/

とみたまさひろさん作・バージョン間パラメータ比較ができるページ

• https://tmtm.github.io/mysql-params/

デフォルト値が変更されたパラメータの例

- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/server-system-variables.html# sysvar_explicit_defaults_for_timestamp
- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/server-system-variables.html# sysvar_max_allowed_packet
- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/server-system-variables.html# sysvar_table_open_cache
- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/server-options.html# option_mysqld_event-scheduler

サーバ変数名が変更されたパラメータの例

- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/server-system-variables.html# sysvar transaction read only
- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/server-system-variables.html# sysvar_transaction_isolation

1.3.2 その他の変更点

bind-address サーバ変数(起動オプション)で複数のアドレスをサポート

• https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/server-system-variables.html# sysvar_bind_address

管理専用ポートの追加

- http://mita2db.blogspot.com/2019/05/mysqladministrative-network-interface.html
- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/client-connections.html
- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/privileges-provided.html# priv_service-connection-admin
- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/server-system-variables.html# sysvar_admin_address

- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/server-system-variables.html# sysvar admin port
- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/server-system-variables.html# sysvar create admin listener thread

サーバに mysqld safe 機能を追加

- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/server-options.html# option mysqld daemonize
- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/server-options.html# option mysqld initialize
- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/server-options.html# option_mysqld_basedir

TLS 1.3 サポート

• https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/encrypted-connection-protocols-ciphers.html

1.4 キーワードと予約語

SQLの中で予約語をテーブル名・カラム名等に使用する場合、バッククォート等で囲む必要があります。 MySQL 8.0 で増えた予約語がテーブル名等に使われている場合は要注意です。

公式リファレンスマニュアル

• https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/keywords.html

公式サーババージョンリファレンス

• https://dev.mysql.com/doc/mysqld-version-reference/en/keywords.html

ブログ記事等

- 著者ブログ
 - https://qiita.com/hmatsu47/items/a1da0e06f0597acd6502

1.5 キャラクタセットと照合順序

MySQL 8.0 では Unicode 9.0 がサポートされるとともに、デフォルトのキャラクタセットが utf8mb4 に変更されました。あわせて照合順序(COLLATION)も拡張されています。

公式リファレンスマニュアル

• https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/charset-charsets.html

ブログ記事等

- https://mysqlserverteam.com/mysql-8-0-1-japanese-collation-for-utf8mb4-ja_jp/
- https://mysqlserverteam.com/mysql-8-0-kana-sensitive-collation-for-japanese-ja_jp/
- https://tmtms.hatenablog.com/entry/201805/mysql-innovation-day-tokyo

公式リファレンスマニュアル/設定パラメータ等

- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/server-system-variables.html# sysvar_character_set_server
- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/server-system-variables.html# sysvar_collation_server
- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/server-system-variables.html# sysvar_character_set_database
- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/server-system-variables.html# sysvar character set client
- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/server-system-variables.html# sysvar_character_set_connection
- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/server-system-variables.html# sysvar_character_set_results
- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/server-system-variables.html# sysvar_default_collation_for_utf8mb4

デフォルトの変更とあわせて、utf8mb4 指定時の処理高速化も行われています。

ブログ記事等

• http://dimitrik.free.fr/blog/archives/2018/04/mysql-performance-80-and-utf8-impact.html

ブログ記事等/照合順序による差

• https://yoku0825.blogspot.com/2018/12/utf8mb40900aici.html

加えて、8.0.17 から照合順序 utf8mb4_0900_bin がサポートされ、utf8mb4_bin と比べてソートが高速化されています* 4 。

公式リファレンスマニュアル

• https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/charset-unicode-sets.html

ブログ記事等

- 著者ブログ
 - https://qiita.com/hmatsu47/items/d66830c8a00c21f5edad

また、正規表現ライブラリの変更とあわせて、正規表現で Unicode がサポートされました。

^{*4} 但し、条件によっては遅くなることもあるようです。詳細は著者ブログを参照してください。

公式リファレンスマニュアル

 $\bullet \ \, https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/regexp.html$

ブログ記事等

• https://www.s-style.co.jp/blog/2018/09/2519/

1.6 リンク集 URL



 \boxtimes 1.1: https://hmatsu47.hatenablog.com/book_mysql80_011

第2章

ユーザ管理・認証・権限設定の変更と新 機能

2.1 認証プラグイン

MySQL 8.0 では Caching sha2 authentication プラグインが導入され、デフォルトとなりました。従来 の MySQL Native Password プラグインと比べて、以下の点が優れています。

- 安全なパスワード暗号化
- 高いパフォーマンス

公式リファレンスマニュアル

- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/caching-sha2-pluggable-authentication.html
- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/mysql-command-options.html# option mysql get-server-public-key

ブログ記事等

- https://www.s-style.co.jp/blog/2018/05/1807/
- https://yoku0825.blogspot.com/2018/01/mysql-804.html
- https://yoku0825.blogspot.com/2018/10/mysql-80cachingsha2password-ssl.html

アプリケーションからの接続に使うコネクタによっては、Caching sha2 authentication プラグインに対応していないことがあります。その場合は従来の MySQL Native Password プラグインをデフォルトにするか、接続ユーザに対する認証プラグインとして指定します(ブログ記事等の 1 つ目)。

その他、認証プラグインの注意点についてはブログ記事等の2つ目・3つ目を参照してください。

実行例

MvSQL 5.7 からアップグレードした環境で確認してみます。

mysql> SELECT user, host, plugin, authentication_string FROM mysql.user;
+-----+

user		plugin	authentication_string
+	+	-+	+
mysql.infoschema TANDPASSWORDTHATMUS			1 \$A\$005\$THISISACOMBINATIONOFINVALIDSAL
mysql.session HERE	localhost	mysql_native_password	1 *THISISNOTAVALIDPASSWORDTHATCANBEUSED
mysql.sys TANDPASSWORDTHATMUS		<u> </u>	1 \$A\$005\$THISISACOMBINATIONOFINVALIDSAL
root 4BC7			i *ODB50A1723AF0498B6B290CD9E827AAB206D
testuser 6C62	localhost	mysql_native_password	1 *A4C8C2403A2F78879BE15B52489D5F3D24B6
	+	-+	+
		+	
5 rows in set (0.00) sec)		
mysql> CREATE USER Query OK, O rows af			'ITH mysql_native_password BY 'HOgeFug@';
		in, authentication_string	g FROM mysql.user;
user	host	plugin 	authentication_string
+		•	+
hmatsu47 B7F8	localhost	mysql_native_password	i *5528FA7F88CFC88E779DAE7C94511C249878
mysql.infoschema TANDPASSWORDTHATMUS		<u> </u>	1 \$A\$005\$THISISACOMBINATIONOFINVALIDSAL
mysql.session HERE	localhost	mysql_native_password	1 *THISISNOTAVALIDPASSWORDTHATCANBEUSED
mysql.sys TANDPASSWORDTHATMUS			1 \$A\$005\$THISISACOMBINATIONOFINVALIDSAL
root 4BC7	localhost	mysql_native_password	1 *ODB50A1723AF0498B6B290CD9E827AAB206D
testuser 6C62	localhost	mysql_native_password	i *A4C8C2403A2F78879BE15B52489D5F3D24B6
+	•	-+	+
6 rows in set (0.00		+	
mysql> ALTER USER 'Query OK, O rows af			TH caching_sha2_password;
+	+	in, authentication_string	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
user		+ plugin 	authentication_string
			+
hmatsu47		+ caching_sha2_password	i
 mysql.infoschema	localhost	caching_sha2_password	1 \$A\$005\$THISISACOMBINATIONOFINVALIDSAL

ブログ記事等の2つ目に示されている通り、ALTER USER ~ IDENTIFIED WITH を実行するとパスワードが消えてしまいます。

2.2 ユーザ・パスワードと権限の管理

2.2.1 ユーザアカウントごとに2つのアクティブパスワードをサポート

ユーザパスワードの変更を行う際、変更ミスがあると認証ができなくなるため、変更には神経を使います。また、アプリケーションで利用するユーザアカウントでは、パスワードの変更とアプリケーション(もしくはアプリケーション設定)の変更を同じタイミングで実施しないといけないため、レプリカを多数使う環境ではメンテナンス停止なしにパスワードを変更するのが困難でした。

MySQL 8.0 では、ユーザーアカウントごとに 2 つのアクティブパスワードをサポートするようになりました。最初にユーザパスワードを変更し、全てのアプリケーション(もしくはアプリケーション設定)の変更を段階的に進め、完了後に古いパスワードを無効化する、という運用が可能です。

公式リファレンスマニュアル

• https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/password-management.html#dual-passwords

ブログ記事等

• https://gihyo.jp/dev/serial/01/mysql-road-construction-news/0090

2.2.2 その他のユーザ・パスワード管理、権限管理に関わる変更点

SUPER 権限を動的権限に分割

 https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/privileges-provided.html# privileges-provided-dynamic

外部キー制約を作成するには親テーブルに対する REFERENCES 権限が必要に

https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/create-table-foreign-keys.html

GRANT ステートメントによるユーザ作成の廃止

• http://next4us-ti.hatenablog.com/entry/2018/07/13/123322

GRANT TABLE のホスト名が 255 文字まで指定可能に

• https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/grant-tables.html# grant-tables-scope-column-properties

データベースオブジェクトに対する部分的な権限の取り消し(REVOKE)

• https://mysqlserverteam.com/partial-revokes-from-database-objects/

ALTER USER / SET PASSWORD 時に変更前パスワードの入力を要求

• https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/password-management.html

print_identified_with_as_hex システム変数

 https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/server-system-variables.html# sysvar_print_identified_with_as_hex

セキュアセッション変数の設定(MYSQL_SESSION_ADMIN 権限)

• https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/privileges-provided.html# priv_session-variables-admin

--skip-grant-tables オプション付きで起動したときに--skip-networking も有効化する

 https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/server-options.html# option_mysqld_skip-grant-tables

ACL ステートメントをアトミックにする

• https://www.ospn.jp/osc2018-osaka/pdf/osc2018_osaka_20180126_MySQL_Update.pdf - 72 ページを参照

ログイン失敗時に認証を遅延させる

 http://masato.ushio.org/blog/index.php/2018/05/08/whats_new_in_mysql8_translation/ - 「ユーザパスワードへのブルートフォース攻撃を低速化する」

LDAP 認証プラグインに関する機能追加(Enterprise)

 $\bullet \ https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/ldap-pluggable-authentication.html$

2.3 yaSSL から OpenSSL に移行し動的リンク化

認証そのものではありませんが、認証機能から利用されるため関連項目としてあげておきます。 SSL/TLS ライブラリが yaSSL から OpenSSL に変更され、ライブラリのリンク方式が動的になりました。TLS 1.3 に対応するなどセキュリティ強化につながっています。

公式リファレンスマニュアル

- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/encrypted-connections.html
- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/fips-mode.html

ブログ記事等

• https://www.s-style.co.jp/blog/2018/07/2112/

2.4 ロール

MySQL~8.0 では権限に関わる機能としてロール(ROLE)がサポートされました。ロールの基本的な使い方は以下の通りです。

- 特別な権限(スキーマ・テーブル・ユーザの CREATE・DROP などの管理業務に必要な権限)は、ユーザ個人に直接付与するのではなくロールに付与する
- それぞれのユーザが適用できるロールをあらかじめ指定しておく
- ユーザは特別な権限を必要とする操作を実行するときに、ロールを適用してから実行する

MvSQL 8.0 でサポートされた主なロール機能は以下の通りです。

- ロールの作成と削除
- ロールに対する権限の付与と剥奪
- 適用するロールの切り替え
- ロールに関する情報の表示
- ログイン (接続) 時に適用されるデフォルトロールの指定
- 必須ロール (mandatory_roles) の指定
- 必須ロールを含めたログイン (接続) 時適用ロールの指定

公式リファレンスマニュアル

- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/roles.html
- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/server-system-variables.html# sysvar mandatory roles
- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/server-system-variables.html# sysvar_activate_all_roles_on_login

ブログ記事等

- https://yoku0825.blogspot.com/2016/09/mysql-800role.html
- https://www.s-style.co.jp/blog/2018/07/2123/
- http://next4us-ti.hatenablog.com/entry/2019/04/25/223048
 - MySQL 8.0.16 での変更点 (DROP ROLE でユーザアカウントを誤削除しないように)
- https://lefred.be/content/some-queries-related-to-mysgl-roles/
 - mysql.role_edges テーブルを使ったロールの確認
- 著者ブログ
 - https://qiita.com/hmatsu47/items/e4a49d32685220d492a9
 - https://qiita.com/hmatsu47/items/0cf831b6a39086dfdb0e

```
[root@mysql57to80 ~]# mysql -u root -p
Enter password:パスワードを入力
Welcome to the MySQL monitor. Commands end with; or \g.
(中略)
mysql> GRANT SELECT ON test.sales_person TO 'hmatsu47'@'localhost';
Query OK, 0 rows affected (0.00 sec)
※ユーザには SELECT 権限のみ付与
mysql> CREATE ROLE 'account admin';
Query OK, 0 rows affected (0.01 sec)
※ロールを作成
mysql> GRANT SELECT, INSERT, UPDATE, DELETE ON test.sales_person TO 'account_admin';
Query OK, 0 rows affected (0.01 sec)
※ロールには更新権限も付与
mysql> GRANT 'account_admin' TO 'hmatsu47'@'localhost';
Query OK, 0 rows affected (0.00 sec)
※ユーザにロールを割り当て
mysql> QUIT
Bye
[root@mysql57to80 ~]# mysql -u hmatsu47 -p
Enter password:パスワードを入力
Welcome to the MySQL monitor. Commands end with; or \g.
(中略)
mysql> USE test;
Reading table information for completion of table and column names
You can turn off this feature to get a quicker startup with -A
Database changed
mysql> SELECT * FROM sales_person;
| id | name |
| 1 | 田中 |
| 2|坂井 |
```

```
| 3 | 富田 |
| 4 | 三谷 |
4 rows in set (0.00 sec)
※ SELECT は可能
mysql> INSERT INTO sales_person SET name=' 梶山';
ERROR 1142 (42000): INSERT command denied to user 'hmatsu47'@'localhost' for table 'sales_pers
※ INSERT はできない
mysql> SET ROLE 'account_admin';
Query OK, 0 rows affected (0.00 sec)
※ロールを有効化
mysql> INSERT INTO sales_person SET name=' 梶山';
Query OK, 1 row affected (0.01 sec)
※ INSERT もできるようになった
mysql> SELECT * FROM sales_person;
+---+
| id | name |
+----+
| 1|田中 |
  2 | 坂井
  3 | 富田
  4 | 三谷
| 5 | 梶山
+----+
5 rows in set (0.00 sec)
```

2.5 リンク集 URL



図 2.1: https://hmatsu47.hatenablog.com/book_mysql80_021

第3章

DDL と管理用 SQL の新機能

3.1 DDL

MySQL 8.0 ではインスタント DDL のサポートなど、DDL 関連の機能が向上しています。

3.1.1 インスタント DDL

ALTER TABLE でカラムの追加等を行う際、実データの更新を行わずメタデータ *1 の更新のみを行う機能です。なお、全ての DDL 処理がインスタント DDL として処理できるわけではありません。インスタント DDL に対応している処理については、公式マニュアルで確認してください。

公式リファレンスマニュアル

 $\bullet \ \ https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/innodb-online-ddl-operations.html$

ブログ記事等

- https://www.s-style.co.jp/blog/2018/09/2525/
- https://www.walksocket.com/archives/715
- https://mysqlserverteam.com/mysql-8-0-innodb-now-supports-instant-add-column/
- http://kenken0807.hatenablog.com/entry/2019/03/18/173600
 - ADD COLUMN の方式の違い、およびその後の UPDATE 方式の違いによるデータサイズと所要時間 の差異調査

実行例

mysql> ALTER TABLE test ADD COLUMN str VARCHAR(100), ALGORITHM=INSTANT; Query OK, O rows affected (0.05 sec) Records: O Duplicates: O Warnings: O

^{*1} テーブルの設計情報など

3.1.2 カラムのデフォルト値指定の拡張(関数・式の利用)

以前は日付型カラムにおいて CURRENT_TIMESTAMP を指定できる程度でしたが、MySQL~8.0 からカラムのデフォルト値として関数や式を指定できるようになりました。

公式リファレンスマニュアル

 $\bullet \ https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/data-type-defaults.html\#data-types-defaults-explicit \\$

ブログ記事等

- https://yoku0825.blogspot.com/2018/10/mysql-8013default.html
- https://mysqlserverteam.com/the-mysql-8-0-13-maintenance-release-is-generally-available/

```
※ sql_require_primary_key=0 の環境で実行した結果です。
mysql> CREATE TABLE def_test (org_str VARCHAR(100), sha_str VARCHAR(64) DEFAULT (SHA2(org_str
, 256)));
Query OK, 0 rows affected (0.03 sec)
※関数を使う
mysql> INSERT INTO def_test SET org_str='abc';
Query OK, 1 row affected (0.01 sec)
※中略
mysql> SELECT * FROM def_test;
| org_str | sha_str
        | ba7816bf8f01cfea414140de5dae2223b00361a396177a9cb410ff61f20015ad |
        | a665a45920422f9d417e4867efdc4fb8a04a1f3fff1fa07e998e86f7f7a27ae3 |
l 123
        | ade099751d2ea9f3393f0f32d20c6b980dd5d3b0989dea599b966ae0d3cd5a1e |
| XYZ
3 rows in set (0.00 sec)
mysql> CREATE TABLE def test2 (val INT NOT NULL, calc BIGINT DEFAULT (val*(val+1)));
Query OK, 0 rows affected (0.02 sec)
※式を使う
mysql> INSERT INTO def_test2 SET val=10;
Query OK, 1 row affected (0.01 sec)
※中略
mysql> SELECT * FROM def_test2;
+----+
| val | calc |
| 10 | 110 |
| 100 | 10100 |
```

```
+----+
2 rows in set (0.00 sec)
```

3.1.3 不可視インデックス

不可視インデックス(Invisible Index)は、インデックスをオプティマイザから使われないようにする機能です。

インデックスを運用していると、データの増加や値の偏りなどによって有効に利用されなくなることがありますが、非効率なインデックスだからといっていきなり削除してしまうと、削除に時間が掛かったり意図しない実行計画の変化をもたらす場合があります。

不可視インデックスを使うと、インデックスを削除する前に(インデックスが削除された状態での)オプティマイザの判断を確認することができます。

反対に、インデックスを追加する際にいきなり有効にするのではなく無効(不可視)の状態で追加し、影響を確認してから有効(可視)化する使い方も可能です。

公式リファレンスマニュアル

- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/invisible-indexes.html
- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/switchable-optimizations.html
 オプティマイザスイッチ use invisible indexes

ブログ記事等

- https://www.s-style.co.jp/blog/2018/08/2275/
- https://hit.hateblo.jp/entry/MYSQL8/INVISIBLE_INDEX

mysql> EXPLAIN SELECT * FROM iv_test WHERE val BETWEEN 40 AND 59;
+
+
+ 1 row in set, 1 warning (0.00 sec) ※インデックス idx_val が効いている
mysql> ALTER TABLE iv_test ALTER INDEX idx_val INVISIBLE; Query OK, O rows affected (0.01 sec) Records: O Duplicates: O Warnings: O ※インデックス idx_val を不可視にする。可視化するときは VISIBLE
mysql> EXPLAIN SELECT * FROM iv_test WHERE val BETWEEN 40 AND 59;
+
++ 1 SIMPLE
+
mysql> SET optimizer_switch='index_merge=on, index_merge_union=on, index_merge_sort_union=on, ind ex_merge_intersection=on, engine_condition_pushdown=on, index_condition_pushdown=on, mrr=on, mrr_c ost_based=on, block_nested_loop=on, batched_key_access=off, materialization=on, semijoin=on, looses can=on, firstmatch=on, duplicateweedout=on, subquery_materialization_cost_based=on, use_index_exte nsions=on, condition_fanout_filter=on, derived_merge=on, use_invisible_indexes=on, skip_scan=on'; Query OK, O rows affected (0.00 sec) **オプティマイザスイッチ use_invisible_indexes を on に変更
mysql> EXPLAIN SELECT * FROM iv_test WHERE val BETWEEN 40 AND 59; ++
id select_type table partitions type possible_keys key key_len ref rows filtered Extra ++
+
+ + 1 row in set, 1 warning (0.00 sec) ※インデックス idx_val が効くようになった

3.1.4 降順インデックス

従来、MySQL ではインデックス作成時に DESC を指定しても無視されましたが、MySQL 8.0 から降順インデックスを作成できるようになりました。通常は複合インデックスで昇順ソートしたいカラムと降順ソートしたいカラムが混在する場合に使用します。

公式リファレンスマニュアル

• https://dev.mysgl.com/doc/refman/8.0/en/descending-indexes.html

ブログ記事等

- http://variable.jp/2017/04/13/mysql8-0-descending-index %E3%81%AE%E3%82%B5%E3%83%9D%E3%83%BC%E3%83%88/
- http://mysqlserverteam.com/mysql-8-0-labs-descending-indexes-in-mysql/
- 著者ブログ
 - https://qiita.com/hmatsu47/items/8c5e7abe204f7ecc5084

```
mysql> CREATE TABLE di_test (id INT PRIMARY KEY AUTO_INCREMENT, vall INT, val2 INT. INDEX id
x_val(val1 ASC, val2 ASC));
Query OK, 0 rows affected (0.02 sec)
※複合インデックス idx_val を両カラムとも昇順で作成
mysql> INSERT INTO di_test SET val1=FLOOR(RAND()*100), val2=FLOOR(RAND()*100);
Query OK, 1 row affected (0.01 sec)
※中略
mysql> SELECT * FROM di_test ORDER BY id;
+----+
| id | val1 | val2 |
+----+
| 1 | 62 | 91 |
| 2 | 71 | 82 |
※中略
| 50 | 66 | 41 |
+---+
50 rows in set (0.00 sec)
mysql> EXPLAIN SELECT * FROM di_test ORDER BY val1 ASC, val2 ASC;
+---+-----
                                           --+-----+
| id | select_type | table | partitions | type | possible_keys | key rows | filtered | Extra |
                                                  | key_len | ref |
----+
| 1 | SIMPLE | di_test | NULL
                           | index | NULL
                                           | idx_val | 10
                                                         | NULL |
 50 | 100.00 | Using index |
----+
```

```
1 row in set, 1 warning (0.00 sec)
mysql> EXPLAIN SELECT * FROM di test ORDER BY val1 ASC, val2 DESC;
+---+
-----+
| id | select_type | table | partitions | type | possible_keys | key | key_len | ref |
rows | filtered | Extra
+---+
| 1 | SIMPLE | di_test | NULL | index | NULL
                               | idx_val | 10
 50 | 100.00 | Using index; Using filesort |
+---+
1 row in set, 1 warning (0.00 sec)
※ Using filesort が表示された
mysql> ALTER TABLE di_test DROP INDEX idx_val, ADD INDEX idx_val(val1 ASC, val2 DESC);
Query OK, 0 rows affected (0.02 sec)
Records: 0 Duplicates: 0 Warnings: 0
mysql> EXPLAIN SELECT * FROM di test ORDER BY val1 ASC, val2 DESC;
-----+
| id | select_type | table | partitions | type | possible_keys | key | key_len | ref |
rows | filtered | Extra |
+---+
-----
50 | 100.00 | Using index |
+---+
----+
1 row in set, 1 warning (0.00 sec)
※ Using filesort が表示されなくなった
```

3.1.5 関数・式インデックス

MySQL~8.0 より、インデックスの定義として関数や式を使うことができるようになりました。MySQL~5.7 でも生成列(Generated Column)によって同様の機能を利用することができましたが、列ではなくインデックスとして定義できるのがポイントです *2 。

公式リファレンスマニュアル

 https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/create-index.html# create-index-functional-key-parts

ブログ記事等

- $\bullet \ \, https://yoku0825.blogspot.com/2018/10/mysql-8013_25.html$
 - 式インデックスの例

 $^{^{*2}}$ MySQL 5.7 の生成列は「更新できない列」であり、ORM(オブジェクト関係マッピング)との相性が悪い、という問題があります。

- 著者ブログ/ MvSQL 5.7 の生成列を使う例
 - https://qiita.com/hmatsu47/items/128ece7276e4deac1477

実行例

```
※関数インデックスの例。降順インデックスの実行例で使ったテーブルを流用。
mysql> EXPLAIN SELECT * FROM di test WHERE MOD(val1, 10) < 3;
+---+
-----+
| id | select_type | table | partitions | type | possible_keys | key | key_len | ref |
rows | filtered | Extra
50 | 100.00 | Using where; Using index |
1 row in set, 1 warning (0.00 sec)
※ val1 が idx val の 1 列目に定義されているのでインデックスフルスキャンになっている。
mysql> ALTER TABLE di_test ADD INDEX idx_func((MOD(val1, 10)));
Query OK, 0 rows affected (0.05 sec)
Records: 0 Duplicates: 0 Warnings: 0
※関数インデックス idx_func を定義。
mysql> EXPLAIN SELECT * FROM di_test WHERE MOD(val1, 10) < 3;</pre>
+----+
| id | select_type | table | partitions | type | possible_keys | key | key_len | ref
| rows | filtered | Extra |
+----+
1 | SIMPLE | di_test | NULL
                    | range | idx_func
                                | idx_func | 5
| 14 | 100.00 | Using where |
1 row in set, 1 warning (0.00 sec)
※ idx_func の range スキャンに変わった。
```

3.1.6 主キーのないテーブルの禁止(sql_require_primary_key)

MySQL 8.0 より、主キーのないテーブルの作成を禁止するサーバシステム変数 sql_require_primary_key が新設されました。

公式リファレンスマニュアル

 https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/server-system-variables.html# sysvar_sql_require_primary_key

ブログ記事等

• https://yoku0825.blogspot.com/2018/10/mysql-8013primary-key.html

3.1.7 CHECK 制約

MySQL~8.0.16 より、CHECK 制約がサポートされました*3。

公式リファレンスマニュアル

- $\bullet \ https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/create-table-check-constraints.html\\$
- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/table-constraints-table.html
 - INFORMATION_SCHEMA.TABLE_CONSTRAINTS テーブル
 - * CONSTRAINT_TYPE 列

ブログ記事等

- https://mysglserverteam.com/mysgl-8-0-16-introducing-check-constraint/
- https://yoku0825.blogspot.com/2019/04/mysql-8016checknot-enforced.html
- http://next4us-ti.hatenablog.com/entry/2019/04/25/133554

3.1.8 その他の DDL 新機能

アトミックな DDL・バイナリログからのアトミックな DDL リカバリ

• https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/atomic-ddl.html

インプレース処理でのキャラクタセット変換

- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/alter-table.html#alter-table-performance
- $\bullet \ https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/alter-table.html\#alter-table-character-set$
 - INPLACE との組み合わせが可能

ADD DATAFILE を伴わない CREATE TABLESPACE

- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/create-tablespace.html
 - ADD DATAFILE

LOCK TABLES を伴う RENAME TABLE

- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/rename-table.html
 - $\Gamma As of MySQL 8.0.13, \cdots \rfloor$

^{*3} 過去のバージョンでは制約として定義した内容がエラーにならない場合でも、処理上は無視されていました。

The ddl_rewriter Plugin

• https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/ddl-rewriter.html

3.2 管理用 SQL

MySQL 8.0 では、MySQL 5.7 で始まった「**OS レベルではなく SQL レベルの操作でサーバの管理を 行う**」機能の実装がさらに進みました。

3.2.1 RESTART ステートメント

MySQL~5.7 で導入された SHUTDOWN ステートメントに続いて、MySQL~8.0 では RESTART ステートメントが使えるようになりました。OS 操作レベルではなく、MySQL に接続して SQL 操作レベルでのサーバ再起動が可能です。

なお、実行には SHUTDOWN 権限が必要です。

公式リファレンスマニュアル

• https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/restart.html

ブログ記事等

• https://www.s-style.co.jp/blog/2018/09/2527/

3.2.2 SET PERSIST ステートメント

従来、SET ステートメントで設定した設定値は、サーバを再起動すると消えてしまっていました。MySQL 8.0 では、SET PERSIST ステートメントにより設定値が保存され、サーバを再起動しても維持されるようになりました。

また、SET PERSIST_ONLY ステートメントによって、動作中のサーバには影響を与えず、次回(再)起動時に有効になる形で設置値を変更できるようになりました。

そして、RESET PERSIST ステートメントによって設定値をデフォルトに戻すことができます。

必要な権限など細かい仕様については、公式リファレンスマニュアル・ブログ記事等を参照してください。

公式リファレンスマニュアル

- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/persisted-system-variables.html
- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/server-system-variables.html# sysvar_persist_only_admin_x509_subject
 - SET PERSIST_ONLY するユーザに対する追加の認証設定について

ブログ記事等

- https://www.s-style.co.jp/blog/2018/08/2262/
- https://yoku0825.blogspot.com/2019/04/mysql-8015-set-persistonly.html
 - SET PERSIST_ONLY についての注意喚起

3.3 リンク集 URL



図 3.1: https://hmatsu47.hatenablog.com/book_mysql80_031

第4章

CTE とウィンドウ関数

4.1 CTE (Common Table Expressions)

CTE(共通テーブル式)は、主たる SQL の問い合わせを実行するために補助的に使う一時テーブルを定義するものです。WITH で記述を始めるので WITH 句とも呼びます。

単純なテーブル構造だけではなく、WITH RECURSIVE で再帰的に記述することもできるのがポイントです。

公式リファレンスマニュアル

- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/with.html
- $\bullet \ \ https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/with.html\#common-table-expressions-recursive$

ブログ記事等

- https://www.s-style.co.jp/blog/2017/07/884/
- https://yakst.com/ja/posts/4322
- https://yoku0825.blogspot.com/2018/04/mysql-80ctewith-recursive1000.html
- https://tombo2.hatenablog.com/entry/2019/03/10/222732
- http://next4us-ti.hatenablog.com/entry/2019/03/21/003927
- 著者ブログ
 - https://qiita.com/hmatsu47/items/01211556089b19913d05

実行例

著者ブログで使ったデータのうち、今回は order_id=3 のスタイリッシュパッケージを抽出・更新してみます。

```
mysql> CREATE TABLE order_detail (
```

- -> detail_id INT UNSIGNED PRIMARY KEY AUTO_INCREMENT,
- -> order_id INT UNSIGNED NOT NULL,
- -> parent_id INT UNSIGNED,
- -> product_name VARCHAR(100),
- -> cancel_flag INT UNSIGNED NOT NULL,
- -> INDEX (order_id),

```
-> INDEX (parent id)
  -> );
Query OK, 0 rows affected (0.03 sec)
mysql> INSERT INTO order detail VALUES( 1,1,NULL, '車両本体 Sグレード'
                                                 ,0);
Query OK, 1 row affected (0.01 sec)
(中略)
mysql> INSERT INTO order_detail VALUES(22,3, 19,'リアスポイラー'
                                                 ,0);
Query OK, 1 row affected (0.01 sec)
mysql> SELECT * FROM order detail;
+-----+
                                              | cancel_flag |
| detail_id | order_id | parent_id | product_name
22 rows in set (0.00 sec)
※データの構造は以下の通り(著者ブログより)。
order#1-+-車両本体 S グレード
     +-+-セーフティーパッケージ
     | +---衝突回避ブレーキシステム
     | +-+-追加エアバッグセット
     | +---サイドエアバッグ
     | +---カーテンエアバッグ
     +-+-18 インチセット
     I I
     │ +---225/40R18 ラジアルタイヤ
```

```
| +---18 インチアルミホイール
     +---フロアマット
order#2-+-車両本体 B グレード
     +---サイドバイザー
     +---フロアマット
order#3-+-車両本体 X グレード
      +-+-スタイリッシュパッケージ
       +-+-18 インチセット
       \perp
       | +---225/40R18 ラジアルタイヤ
       1.1
       l +---18 インチアルミホイール
       +-+-エアロセット B
        +---フロントアンダースポイラー
        +---サイドステップ
        +---リアスポイラー
mysql> WITH RECURSIVE product order AS
   -> (
     SELECT detail_id, parent_id, product_name, cancel_flag
   ->
       FROM ctetest.order detail
   ->
       WHERE order_id = 3 AND product_name = ,スタイリッシュパッケージ,
   -> UNION ALL
   -> SELECT child.detail_id, child.parent_id, child.product_name, child
.cancel_flag
  -> FROM ctetest.order_detail AS child, product_order
-> WHERE product_order_detail id = child
       WHERE product_order.detail_id = child.parent_id
  -> )
   -> SELECT * FROM product_order;
+-----
| detail_id | parent_id | product_name
                                        | cancel_flag |
+-----
     0 |
                                                        0 |
                                                    0 |
     21 | 19 | サイドステップ
22 | 19 | リアスポイラー
0 |
8 rows in set (0.02 sec)
※ order_id=3 に含まれるスタイリッシュパッケージと、その子・孫にあたる行が抽出された。
mysql> WITH RECURSIVE product_order AS
```

```
-> (
   -> SELECT detail id, parent id, product name, cancel flag
   -> FROM ctetest.order detail
        WHERE order_id = 3 AND product_name = ,スタイリッシュパッケージ,
   ->
   -> UNION ALL
   -> SELECT child.detail id, child.parent id, child.product name, child
.cancel_flag
   -> FROM ctetest.order_detail AS child, product_order
        WHERE product_order.detail_id = child.parent_id
   ->
   -> )
   -> UPDATE ctetest.order detail
   -> SET cancel flag = 1
   -> WHERE detail id IN
   -> (SELECT detail_id FROM product_order);
Query OK, 8 rows affected (0.01 sec)
Rows matched: 8 Changed: 8 Warnings: 0
※ CTE で直接 UPDATE はできないので、CTE をサブクエリで使う。DELETE の場合も同じ。
mysql> SELECT * FROM ctetest.order_detail WHERE cancel_flag = 1;
+-----+
| detail_id | order_id | parent_id | product_name
                                                             | cancel_flag |
+-----
      15 | 3 | 14 | スタイリッシュパッケージ
16 | 3 | 15 | 18 インチセット
17 | 3 | 16 | 225/40R18 ラジアルタイヤ
18 | 3 | 16 | 18 インチアルミホイール
19 | 3 | 15 | エアロセット B
20 | 3 | 19 | フロントアンダースポイラー
21 | 3 | 19 | サイドステップ
22 | 3 | 19 | リアスポイラー
                                                              -
-
-
-
                                                                            1 |
1 |
                                                                             1 |
                                                                              1 |
                                                                             1 |
8 rows in set (0.00 sec)
※ CTE 抽出行のみ、cancel flag が 1 に更新されている。
```

4.2 ウィンドウ関数(Window Function)

MySQL 8.0 ではウィンドウ関数も利用できるようになりました。ウィンドウ関数は、テーブルに存在する複数の行を、区間に分割して集計する機能です。集約関数(GROUP BY)とは違い、複数の行がまとめられることはなく、個々の行が返却されます。

関数名	説明
CUME_DIST()	累積分布值
DENSE_RANK()	パーティション内の現在行の順位(ギャップなし)
FIRST_VALUE()	ウィンドウフレームの最初の行の値
LAG()	パーティション内の前行の値
LAST_VALUE()	ウィンドウフレームの最終行の値
LEAD()	パーティション内の次行の値
NTH_VALUE()	ウィンドウフレームの N 行目の値
NTILE()	パーティション内の現在行が含まれるバケット番号
PERCENT_RANK()	パーセントランク値
RANK()	パーティション内の現在行の順位(ギャップあり)
ROW_NUMBER()	パーティション内の現在の行番号

利用可能な関数の詳細については、公式リファレンスマニュアルおよびブログ記事等の2つ目・3つ目を 参照してください。

公式リファレンスマニュアル

• https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/window-functions.html

ブログ記事等

- http://blog.kimuradb.com/?eid=877509
- http://next4us-ti.hatenablog.com/entry/2019/03/24/225924
- https://tombo2.hatenablog.com/entry/2019/03/12/231618
- 著者ブログ
 - https://qiita.com/hmatsu47/items/6cc0e69f3895f3e4a486
 - https://qiita.com/hmatsu47/items/7976e81100604f8984d2

実行例

著者ブログの記事と同様の集計を、愛知県ではなく静岡県のデータで実行してみました。

```
+---+
35 rows in set (0.00 sec)
mysql> SELECT RANK() OVER (ORDER BY population DESC) AS pop_rank,
  -> ctv name, population FROM shizuoka;
※全市町村のランキングを抽出。
+----+
+----+

      1 | 浜松市
      | 804989 |

      2 | 静岡市
      | 704043 |

      3 | 富士市
      | 254203 |

| 34 | 榛原郡川根本町 | 7002 | 
| 35 | 賀茂郡松崎町 | 6768 |
35 rows in set (0.02 sec)
mysql> SELECT ctv_type,
  -> RANK() OVER (PARTITION BY ctv_type ORDER BY population DESC)
   -> AS pop rank,
```

```
-> ctv_name, population FROM shizuoka;
※市町村種類別のランキングを抽出。なお、静岡県には中核市(ctv_type=2)・村(ctv_type=6)は存在しない。
+-----
+-----
       1 | 1 | 浜松市
1 | 2 | 静岡市
                                      804989 |
                                            704043 I
             1 | 富士市
2 | 沼津市
1 | 磐田市
2 | 藤枝市
1
       3 |
                                      | 254203 |
                                     | 196530 |
| 169931 |
       3 |
169931 I
      4 |
1
      4 |
                                             145789 |
(中略)
   5 | 11 | 榛原郡川根本町 | 7002 | 5 | 12 | 賀茂郡松崎町 | 6768 |
35 rows in set (0.00 sec)
mysql> SELECT RANK() OVER w AS pop rank,
   -> ctv name, population,
   -> (SUM(population) OVER w / SUM(population) OVER w2)*100
   -> AS sum pct,
   -> FORMAT(CUME DIST() OVER w, 3) AS c dist FROM shizuoka
   -> WINDOW w AS (ORDER BY population DESC), w2 AS ();
※ sum_pct は、人口が多い市町村から集計した総和が県全体の人口に占める割合。c_dist=0.2 のところが「上位 2 割
(35 市区町村のうちの7番目)」。愛知県同様、60%台中盤だった。
+-----
| 804989 | 21.5743 | 0.029 | | 704043 | 40.4431 | 0.057 | | 254203 | 47.2559 | 0.086 | | 196530 | 52.5231 | 0.114 | | 169931 | 57.0774 | 0.143 | | 145789 | 60.9846 | 0.171 | | 140189 | 64.7418 | 0.200 | | 133290 | 68.3140 | 0.229 | | 117605 | 71.4659 | 0.257 | | 110505 | 74.4275 | 0.286 | | 98909 | 77.0784 | 0.314 | | 88494 | 79.4501 | 0.343 | | 87938 | 81.8069 | 0.371 |
+-----
     1 | 浜松市
       2 | 静岡市
       3 | 富士市
       4 | 沼津市
       5 | 磐田市
       6 | 藤枝市
       7 | 焼津市
       8 | 富士宮市
       9 | 掛川市
1
     10 | 三島市
1
     11 | 島田市
1
1
      12 | 御殿場市
      13 | 袋井市
 (中略)
| 35 | 賀茂郡松崎町 | 6768 | 100.0000 | 1.000 |
35 \text{ rows in set } (0.00 \text{ sec})
mysql> SELECT s.pop_rank, s.ctv_name, s.population,
   -> s.sum_pct, s.c_dist FROM
   -> (
   -> SELECT RANK() OVER w AS pop_rank,
   -> ctv_name, population,
   -> (SUM(population) OVER w / SUM(population) OVER w2)*100
   ->
   -> FORMAT(CUME_DIST() OVER w, 3) AS c_dist FROM shizuoka
   ->
       WINDOW w AS (ORDER BY population DESC), w2 AS ()
   -> ) AS s
   -> WHERE s.c dist <= 0.2;
```

※ウィンドウ関数は WHERE 句に書くことができないので、	「上位 2 割」	で打ち切るときは FROM 句のサブクエリとして
書く。		

pop_rank	-	population		_
l 1	 浜松市		21.5743	
1 2	静岡市	704043	40.4431	0.057
J 3	富士市	254203	47.2559	0.086
l 4	沼津市	196530	52.5231	0.114
J 5	磐田市	169931	57.0774	0.143
l 6	Ⅰ 藤枝市	145789	60.9846	0.171
1 7	焼津市	140189	64.7418	0.200

7 rows in set (0.00 sec)

4.3 リンク集 URL



 \boxtimes 4.1: https://hmatsu47.hatenablog.com/book_mysql80_041

第5章

JSON とオブジェクトストアの新機能

5.1 JSON 関数

MySQL 5.7 でサポートされた JSON 関数ですが、MySQL 8.0 では新たに以下の関数がサポートされました* *1 。

関数名	説明
JSON_ARRAYAGG()	GROUP BY での集約時に結果セットを単一の JSON 配列として返す
JSON_MERGE_PATCH()	重複したキー値を置き換えて JSON ドキュメントを結合する
JSON_OBJECTAGG()	GROUP BY での集約時に結果セットを単一の JSON オブジェクトとして返す
JSON_PRETTY()	人間が読める形式で JSON 文書を表示する
JSON_STORAGE_FREE()	部分更新後の JSON 列値のバイナリ表記内の解放容量
JSON_STORAGE_SIZE()	JSON ドキュメントのバイナリ表記の格納に使用される容量
JSON_TABLE()	JSON 形式の値をリレーショナルテーブルとして返す
JSON_SCHEMA_VALID()	JSON スキーマに対する JSON 文書の検証
JSON_SCHEMA_VALIDATION_REPORT()	検証に関するレポートを JSON 形式で提供
MEMBER OF()	検索用オペレータ/値の全部が含まれるか?
JSON_OVERLAPS()	検索用関数/値の一部が含まれるか?

なお、JSON_MERGE() は非推奨になりました(代わりに JSON_MERGE_PRESERVE() を使います)。

公式リファレンスマニュアル

- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/json-utility-functions.html
- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/json-validation-functions.html
- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/json-search-functions.html

ブログ記事等

- https://hit.hateblo.jp/entry/MYSQL/8.0/JSON
- https://symfoware.blog.fc2.com/blog-entry-2140.html
- https://masayuki14.hatenablog.com/entry/2018/07/25/080000
- https://masayuki14.hatenablog.com/entry/2018/10/17/170000
- https://yoku0825.blogspot.com/2018/04/mysql-80-select-for-update-skip-locked.html

^{*1} JSON_STORAGE_FREE()・JSON_TABLE() を除き MySQL 5.7 系列でもサポートされました(5.7.22)。

実行例

JSON_OBJECTAGG()・JSON_STORAGE_SIZE()・JSON_STORAGE_FREE()・JSON_TABLE() の利用例です。

```
mysql> CREATE TABLE agg test (id INT PRIMARY KEY AUTO INCREMENT, j key VARCHAR(20) UNIQUE NOT
NULL, j val VARCHAR(100));
Query OK, 0 rows affected (0.03 sec)
mysql> INSERT INTO agg_test SET j_key='NEC', j_val='PC-8801';
Query OK, 1 row affected (0.01 sec)
(中略)
mysql> SELECT * FROM agg_test;
+---+
| id | j_key | j_val |
| 1 | NEC | PC-8801
| 2 | FUJITSU | FM-8
| 3 | SHARP | MZ-2000
| 4 | HITACHI | BASIC MASTER L3 |
4 rows in set (0.00 sec)
mysql> SELECT id, JSON_OBJECTAGG(j_key, j_val) AS old_pc FROM agg_test GROUP BY id ORDER BY i
※ JSON_OBJECTAGG() で JSON オブジェクトに変換。
+---+
| id | old_pc
| 1 | {"NEC": "PC-8801"}
 2 | {"FUJITSU": "FM-8"}
 3 | {"SHARP": "MZ-2000"}
| 4 | {"HITACHI": "BASIC MASTER L3"} |
+---+
4 rows in set (0.00 sec)
mysql> CREATE TABLE storage_test (id INT PRIMARY KEY AUTO_INCREMENT, j_obj JSON);
Query OK, 0 rows affected (0.02 sec)
mysql> INSERT INTO storage_test SET j_obj=JSON_OBJECT('corp', 'NEC', 'pc', 'PC-8801');
Query OK, 1 row affected (0.00 sec)
(中略)
mysql> SELECT *, JSON_STORAGE_SIZE(j_obj) FROM storage_test;
※ JSON_STORAGE_SIZE() で JSON 列のサイズを取得。
                                       -----+
| id | j_obj
                                             | JSON_STORAGE_SIZE(j_obj) |
            -----+
| 1 | {"pc": "PC-8801", "corp": "NEC"}
                                                                 37 I
| 2 | {"pc": "FM-8", "corp": "FUJITSU"}
                                                                 38 I
| 2 | { pc : rm-o", "corp": "FUJIISU"}
| 3 | { "pc": "MZ-2000", "corp": "SHARP"}
| 4 | {"pc": "BASIC MASTER L3", "corp": "HITACHI"} |
4 rows in set (0.00 sec)
```

```
mysql> UPDATE storage test SET j obj=JSON REPLACE(j obj, '$.pc', 'MZ-80B') WHERE id=3;
Query OK, 1 row affected (0.00 sec)
Rows matched: 1 Changed: 1 Warnings: 0
mysql> SELECT *, JSON STORAGE FREE(j obj) FROM storage test;
※ JSON STORAGE FREE() で JSON 列を部分更新した際の空きサイズを取得。id=3 の行が 1 文字減少している。
| id | j_obj
                                     | JSON STORAGE FREE(j obj) |
| 1 | {"pc": "PC-8801", "corp": "NEC"}
| 2 | {"pc": "FM-8", "corp": "FUJITSU"}
                                                                0 I
| 3 | {"pc": "MZ-80B", "corp": "SHARP"}
                                                                1 I
| 4 | {"pc": "BASIC MASTER L3", "corp": "HITACHI"} |
4 rows in set (0.00 sec)
mysql> SELECT * FROM JSON TABLE(
   -> '[{"name":"青木","dept":"IT事業部"},{"name":"前田","dept":"コンサル事業部"},{"name":"山
本","dept":["IT事業部","コンサル事業部"]}],
   -> "$\if{*}\lambda"
   -> name VARCHAR(40) PATH "$.name",
-> dent VARCHAR(60)
        dept VARCHAR(60) PATH "$.dept"
   -> )
   -> ) AS tbl_test;
※ JSON_TABLE() で JSON オブジェクトをテーブル形式に変換。name="山本"の非正規列は NULL になっている。
+----+
+----+
+----
3 rows in set (0.00 sec)
```

5.2 X DevAPI とドキュメントストア

5.2.1 X DevAPI の機能向上

X DevAPI 自体は MySQL 5.7 でサポートされましたが、MySQL 8.0 では Connector の対応も進み、より使いやすくなりました。

公式リファレンスマニュアル

- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/document-store.html
 - ドキュメントストア全般
- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/x-plugin.html
 - X プラグイン
- https://dev.mysql.com/doc/x-devapi-userguide/en/
 - X DevAPI ユーザガイド

ブログ記事等

- http://blog.64p.org/entry/2018/07/08/233944
- 著者ブログ
 - https://qiita.com/hmatsu47/items/2de98cd0c9472e72a52a

5.2.2 コード例/ MySQL Connector/J 8.0 を使ったドキュメントストアの利用

X DevAPI によるドキュメントストアの利用例です。MySQL Connector/J 8.0 を使い、Java 8 から実行します*²。

リスト 5.1: DocDbTest.java

```
package site.hmatsu47.DocDbTest;
import java.util.List;
import com.mysql.cj.xdevapi.Collection;
import com.mysql.cj.xdevapi.DbDoc;
import com.mysql.cj.xdevapi.DocResult;
import com.mysql.cj.xdevapi.Schema;
import com.mysql.cj.xdevapi.Session;
import com.mysql.cj.xdevapi.SessionFactory;
public class Main {
       public static void main(String args[]) {
               // サーバに接続
               Session session = new SessionFactory().getSession("mysqlx://localhost:33060/te
st_db?user=testuser&password=T35_U53r");
               // DB に接続
               Schema db = session.getSchema("test_db");
               // コレクション'test collection'を作成
               Collection col = db.createCollection("test_collection", true);
               // コレクションにドキュメントを追加
               col.add("{\"person_id\":1, \"name\":\"青木\", \"dept\":\"IT 事業部\"}")
               .execute();
               col.add("{\"person_id\":2, \"name\":\"前田\", \"dept\":\"コンサル事業部\"}")
               .execute();
               col.add("{\"person_id\":3, \"name\":\"山本\", \"dept\":[\"IT 事業部\",\"コンサ
ル事業部\"]}")
               .execute();
               // コレクションの「person_id」列にインデックスを追加
               col.createIndex("pid_index", "{\"fields\": [{\"field\": \"$.person_id\", \"typ
e\": \"INT\"}]}");
               // コレクションから「dept LIKE '%IT 事業部 %'」を探して表示
```

^{*2} DB のテーブル定義等は著者ブログ記事中のものと同じです。

```
searchDept(col, "IT 事業部");
              System.out.println();
              // コレクションから「dept LIKE '% コンサル事業部 %'」を探して表示
              searchDept(col, "コンサル事業部");
              System.out.println();
              // コレクションから「person_id=2」を探して表示
              searchPid(col, 2);
              System.out.println();
              // コレクションを削除
              db.dropCollection("test_collection");
       }
       // コレクションから対象ドキュメントの「dept」を文字列検索して表示する
       private static void searchDept(Collection col, String keyword) {
              System.out.println("Search: " + keyword);
              DocResult docs = col.find("dept like :dept")
                      .bind("dept", "%" + keyword + "%").execute();
              // 結果を取得して表示
              List<DbDoc> docl = docs.fetchAll();
              docl.forEach(doc -> System.out.println(doc.toFormattedString()));
       }
       // コレクションから対象ドキュメントの「person_id」を数値検索して表示する
       private static void searchPid(Collection col, long value) {
              System.out.println("Search: " + value);
              DocResult docs = col.find("person_id = :pid")
                      .bind("pid", value).execute();
              // 結果を取得して表示
              System.out.println(docs.fetchOne().toFormattedString());
       }
}
```

コードの実行結果

```
Search: IT 事業部
{
    "_id" : "00005c93179d000000000001",
    "dept" : "IT 事業部",
    "name" : "青木",
    "person_id" : 1
}
{
```

```
"_id" : "00005c93179d00000000000000003",
"dept": ["IT 事業部", "コンサル事業部"],
"name" : "山本",
"person_id" : 3
Search: コンサル事業部
"dept" : "コンサル事業部",
"name" : "前田",
"person_id" : 2
"_id" : "00005c93179d0000000000000003",
"dept": ["IT 事業部", "コンサル事業部"],
"name": "山本",
"person_id" : 3
Search: 2
"dept": "コンサル事業部",
"name" : "前田",
"person_id" : 2
```

なお、例では person_id 列にインデックスを追加していますが、主キー *3 を手動で指定する場合は_id 列に値を入れます。

また、以下は8.0.17で非推奨になりました。

- Collection.find().where()
- Collection.modify().where()
- Collection.remove().where()

5.3 その他の JSON 新機能

MySQL Shell / JSON・BSON データのインポート

- https://dev.mysql.com/doc/mysql-shell/8.0/en/mysql-shell-utilities-json.html
- https://qiita.com/miyamadoKL/items/8d255c5faaeed671b58c
- https://mysqlserverteam.com/mysql-shell-8-0-14-whats-new/

JSON パス表現の拡張

- https://dev.mysql.com/worklog/task/?id=9831
- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/json.html#json-path-syntax
 - 「MySQL 8.0.2 and later also supports range notation for subsets of JSON arrays …」

^{*3} 通常は自動で値が入ります。

JSON オブジェクト値の高速ソート

• https://dev.mysql.com/worklog/task/?id=8741

JSON オブジェクト値のインプレース更新

- https://dev.mysql.com/worklog/task/?id=10570
- https://dev.mysql.com/worklog/task/?id=8963

複数値インデックス(Multi-Valued Indexes)

- • https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/create-index.html# create-index-multi-valued
- $\bullet \ \ https://qiita.com/hmatsu47/items/3e49a473bc36aeefc706$

5.4 リンク集 URL



 \boxtimes 5.1: https://hmatsu47.hatenablog.com/book_mysql80_051

第6章

GIS(地理情報システム)の新機能

MySQL 8.0 では、地理情報を扱う GIS 機能が MySQL 5.7 と比較して大きく拡張されました。

- Spatial 関数の追加
- MySQL 5.7 で非推奨になった関数の廃止*1
- Geography サポート
- Spatial Data · Spatial Index · Spatial 関数の SRID サポート/地理座標系サポート

地理座標系をサポートしたことで、MySQL~8.0 では地球を回転楕円体として扱うことができるようになり、GIS 機能が利用しやすくなりました。

概要については以下の資料の1つ目、もう少し深く知りたい場合は2つ目をご確認ください。

- https://www.slideshare.net/yoyamasaki/mysql-80gisfoss4g-2018-hokkaido
- https://www.slideshare.net/sakaik/mysql-gis-clubmysql-4

6.1 GIS 関数

MySQL 8.0 がサポートする GIS 関数は以下の通りです。

【注】

- WKT: Well-Known Text 形式
- WKB: Well-Known Binary 形式
- MBR: Minimum Bounding Rectangle (最小境界矩形または最小外接矩形)

■コラム: GA 後の GIS 関数

MySQL 8.0 がサポートする GIS 関数は GA 後も追加・機能改善が進んでいます。8.0.16 では ST_Length() で単位の指定ができるようになりました。

 $^{^{*1}}$ プレフィクスに ST_・MBR が付かない GIS 関数

関数名	説明
GeomCollection()	ジオメトリからジオメトリコレクションを構築
GeometryCollection()	ジオメトリからジオメトリコレクションを構築
LineString()	Point 値から LineString を構築
MBRContains()	あるジオメトリの MBR に別のジオメトリの MBR が含まれて
	いるか?
MBRCoveredBy()	ある MBR が別の MBR によって覆われているか?
MBRCovers()	ある MBR が別の MBR をカバーするか?
MBRDisjoint()	2つの形状の MBR が交差していないか?
MBREquals()	2つの形状の MBR が等しいか?
MBRIntersects()	2つの形状の MBR が交差するか?
MBROverlaps()	2つの形状の MBR が重複するか?
MBRTouches()	2つの形状の MBR が接触するか?
MBRWithin()	あるジオメトリの MBR が別のジオメトリの MBR 内に
	あるか?
MultiLineString()	LineString 値から MultiLineString を構築
MultiPoint()	Point 値から MultiPoint を構築
MultiPolygon()	Polygon 値から MultiPolygon を構築
Point()	座標から Point を構築
Polygon()	LineString 引数から Polygon を構築
ST_Area()	多角形または多角形領域を返す
ST_AsBinary()	内部ジオメトリ形式から WKB に変換
ST_AsWKB()	
ST_AsGeoJSON()	ジオメトリから GeoJSON オブジェクトを生成
ST_AsText()	内部ジオメトリ形式から WKT に変換
ST_AsWKT()	************************************
ST_Buffer()	ジオメトリから指定距離内にある点のジオメトリを返す
ST_Buffer_Strategy()	ST_Buffer()の戦略オプションを生成する
ST_Centroid()	重心を点として返す
ST_Contains()	あるジオメトリが別のジオメトリを含むか?
ST_ConvexHull()	ジオメトリの凸包を返す
ST_Crosses()	あるジオメトリが別のジオメトリと交差するか?
ST_Difference()	2つのジオメトリの違いを Point Set として返す
ST_Dimension()	ジオメトリの次元
ST_Disjoint()	あるジオメトリが別のジオメトリと交差しないか?
ST_Distance()	あるジオメトリから別のジオメトリまでの距離
ST_Distance_Sphere()	2 つのジオメトリ間の地球上の最小距離
ST_EndPoint()	LineString の終点
ST_Envelope()	ジオメトリの MBR を返す
ST_Equals()	あるジオメトリが別のジオメトリと等しいか?
ST_ExteriorRing()	Polygon の外装リングを返す
ST_GeoHash()	ジオハッシュ値を生成する
<pre>ST_GeomCollFromText() ST_GeometryCollectionFromText()</pre>	 WKT からジオメトリコレクションを返す
ST_GeomCollFromTxt()	11111 // リンタントラーレノンコンで応す
ST GeomCollFromWKB()	WKB からジオメトリコレクションを返す
ST_GeometryCollectionFromWKB()	
ST_GeometryN()	ジオメトリコレクションから N 番目のジオメトリを返す
ST_GeometryType()	ジオメトリタイプの名前を返す
	1

関数名	説明
ST_GeomFromGeoJSON()	GeoJSON オブジェクトからジオメトリを生成する
ST_GeomFromText()	WKT からジオメトリを返す
ST_GeometryFromText()	
ST_GeomFromWKB()	WKB からジオメトリを返す
ST_GeometryFromWKB()	
ST_InteriorRingN()	Polygon の N 番目の内部リングを返す
ST_Intersection()	2つの形状が交差する Point Set を返す
ST_Intersects()	あるジオメトリが別のジオメトリと交差するか?
ST_IsClosed()	ジオメトリが閉じているか?
ST_IsEmpty()	プレースホルダー機能
ST_IsSimple()	形状が単純か?
ST_IsValid()	ジオメトリが有効か?
ST_LatFromGeoHash()	ジオハッシュ値から緯度を返す
ST_Latitude()	ポイントの緯度を返す
ST_Length()	LineString の長さを返す
ST LineFromText()	WKT から LineString を構築
ST_LineStringFromText()	
ST_LineFromWKB()	WKB から LineString を構築
ST_LineStringFromWKB()	
ST_LongFromGeoHash()	ジオハッシュ値から経度を返す
ST_Longitude()	ポイントの経度を返す
ST_MakeEnvelope()	2 点を囲む四角形
ST_MLineFromText()	WKT から MultiLineString を構築
ST_MultiLineStringFromText()	
ST_MLineFromWKB()	WKB から MultiLineString を構築
ST_MultiLineStringFromWKB()	
ST_MPointFromText()	WKT から MultiPoint を構築
ST_MultiPointFromText()	THIED I A M LUD . , & LIE/C
ST_MPointFromWKB()	WKB から MultiPoint を構築
ST_MultiPointFromWKB() ST_MPolyFromText()	WKT から MultiPolygon を構築
SI_MrolyFromText() ST_MultiPolygonFromText()	WKI から Multin orygon を梅来
ST_MPolyFromWKB()	WKB から MultiPolygon を構築
ST_MultiPolygonFromWKB()	
ST_NumGeometries()	ジオメトリコレクション内のジオメトリ数を返す
ST_NumInteriorRing()	Polygon の内部リングの数を返す
ST_NumInteriorRings()	
ST_NumPoints()	LineString のポイント数を返す
ST_Overlaps()	あるジオメトリが別のジオメトリと重なるか?
ST_PointFromGeoHash()	ジオハッシュ値を Point 値に変換
ST_PointFromText()	WKT からポイントを構築
ST_PointFromWKB()	WKB から Point を構築
ST_PointN()	LineString から N 番目の点を返す
ST_PolyFromText()	WKT から Polygon を構築
ST_PolygromText() ST_PolygonFromText()	a a roughour clust
ST_PolyFromWKB()	WKB から Polygon を構築
ST_PolygonFromWKB()	
ST_Simplify()	単純化された形状を返す
ST_SRID()	ジオメトリの SRID を返す
~~	V , / 2 DIGID C/C/

関数名	説明
ST_StartPoint()	LineString の始点
ST_SwapXY()	X / Y 座標を入れ替えて引数を返す
ST_SymDifference()	2つのジオメトリの対称差を Point Set として返す
ST_Touches()	あるジオメトリが別のジオメトリに接するか?
ST_Transform()	ジオメトリの座標を変換する
ST_Union()	2つのジオメトリの和集合を Point Set として返す
ST_Validate()	検証済みのジオメトリを返す
ST_Within()	あるジオメトリが別のジオメトリの中にあるか?
ST_X()	Point の X 座標を返す
ST_Y()	Point の Y 座標を返す

公式リファレンスマニュアル

• https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/spatial-reference-systems.html

ブログ記事等

- https://mysqlserverteam.com/spatial-reference-systems-in-mysql-8-0/
- https://mysqlserverteam.com/geographic-spatial-reference-systems-in-mysql-8-0/
- https://mysqlserverteam.com/projected-spatial-reference-systems-in-mysql-8-0/
- https://mysqlserverteam.com/geography-in-mysql-8-0/
- https://mysqlserverteam.com/geographic-indexes-in-innodb/
 - Geographic R-tree インデックス
- https://qiita.com/advent-calendar/2018/rdbms_gis
 - RDBMS-GIS(MySQL,PostgreSQL など) Advent Calendar 2018 (この中に MySQL 8.0 の 記事多数)
- http://next4us-ti.hatenablog.com/entry/2019/01/23/100858
 - MvSQL 8.0.14 の ST Distance() 機能強化について
- http://atsuizo.hatenadiary.jp/entry/2018/09/01/161717
 - MySQL Workbench / 結果の図表示について
- https://qiita.com/miyauchi/items/89ae1870c5f611b2558c
 - Spatial Index 使用時には SRID の指定が必要
- https://qiita.com/miyauchi/items/893f12679cb21c12c454
 - 一部の関数を使った検索が遅い不具合
- 著者ブログ
 - https://qiita.com/hmatsu47/items/97839fd9c3db1d2e9557

実行例

サンプルとして、

- 距離の計測(東京駅~大阪駅)
- ullet ある地点が、複数の地点(政令指定都市の市役所)を結んだ領域の範囲内にあるかどうかの検索 *2

^{*2} この例では地点間を直線で結んでいますが、実際には都道府県・市区町村界などを領域として定義し、検索地点がどこに属するか判定する使い方のほうが一般的です。

を行ってみます。

なお、いずれも測地系として WGS84(SRID:4326)を使用しています。 MySQL 8.0 の場合、SRID:4326 では地点の座標を「緯度 経度」の順に指定します *3 。

```
mysql> SELECT ST Distance(ST GeomFromText('POINT(35.681236 139.767125)', 4326), ST GeomFromText
t('POINT(34.702485 135.495951)', 4326)) AS dist;
※東京駅と大阪駅の間の距離を計測。約 403.8km。
dist
| 403826.6344217672 |
+-----
1 row in set (0.12 sec)
mysql> CREATE TABLE geom (id INT PRIMARY KEY AUTO INCREMENT, t TEXT, g GEOMETRY NOT NULL SRID 4
326);
Query OK, 0 rows affected (0.02 sec)
mysql> SET @g = 'POLYGON((43.06208 141.354361,38.268195 140.869418,37.916124 139.036371,43.062
08 141.354361));
Query OK, 0 rows affected (0.00 sec)
mysql> INSERT INTO geom SET t='札幌・仙台・新潟', g=ST_GeomFromText(@g, 4326);
※札幌市役所〜仙台市役所〜新潟市役所〜札幌市役所の三角形の領域を設定。
Query OK, 1 row affected (0.01 sec)
mysql> SET @q = 'POLYGON((35.861793 139.64551,35.607285 140.106495,35.530807 139.702997,35.443
674 139.637964,35.571257 139.373427,35.861793 139.64551));
Query OK, 0 rows affected (0.00 sec)
mysql> INSERT INTO geom SET t=' さいたま・千葉・川崎・横浜・相模原', g=ST GeomFromText(@g, 4326);
※さいたま市役所~千葉市役所~川崎市役所~横浜市役所~相模原市役所~さいたま市役所の五角形の領域を設定。
Query OK, 1 row affected (0.01 sec)
mysql> SET @q = 'POLYGON((34.975567 138.382677,34.710865 137.726117,35.181438 136.90642,34.975
567 138.382677));
Query OK, 0 rows affected (0.00 sec)
mysql> INSERT INTO geom SET t='静岡・浜松・名古屋', g=ST_GeomFromText(@q, 4326);
※静岡市役所〜浜松市役所〜名古屋市役所〜静岡市役所の三角形の領域を設定。
Query OK, 1 row affected (0.01 sec)
mysql> SET @q = 'POLYGON((35.011564 135.768149,34.573362 135.483048,34.689486 135.195739,34.69
3725 135.502254,35.011564 135.768149))';
Query OK, 0 rows affected (0.00 sec)
mysql> INSERT INTO geom SET t='京都・堺・神戸・大阪', g=ST_GeomFromText(@q, 4326);
※京都市役所〜堺市役所〜神戸市役所〜大阪市役所〜京都市役所の四角形の領域を設定。
Query OK, 1 row affected (0.00 sec)
mysql> SET @q = 'POLYGON((34.655531 133.919795,32.803216 130.707937,33.590184 130.401689,33.88
3498 130.875177,34.385289 132.455306,34.655531 133.919795));
Query OK, 0 rows affected (0.00 sec)
```

^{*3} 実行例の緯度・経度は、Geocoding (http://www.geocoding.jp/) で調べたものです。

```
mysql> INSERT INTO qeom SET t='岡山・熊本・福岡・北九州・広島', g=ST_GeomFromText(@g, 4326);
※岡山市役所〜熊本市役所〜福岡市役所〜北九州市役所〜広島市役所〜岡山市役所の五角形の領域を設定。
Query OK, 1 row affected (0.01 sec)
mysql> SET @p = ST_GeomFromText('POINT(40.82222 140.747352)', 4326);
Query OK, 0 rows affected (0.00 sec)
mysql> SELECT id, t FROM geom WHERE ST_Contains(g, @p);
※青森市役所の位置は1番目の領域内にある。
| id | t
| 1 | 札幌・仙台・新潟 |
+---+
1 row in set (0.00 sec)
mysql> SELECT id, t FROM geom WHERE ST_Within(@p, g);
※ ST Within() は、結果的に ST Contains とは引数が逆になる。
| id | t
| 1 | 札幌・仙台・新潟 |
1 row in set (0.00 sec)
mysql> SET @p = ST_GeomFromText('POINT(33.284461 131.490709)', 4326);
Query OK, 0 rows affected (0.00 sec)
mysql> SELECT id, t FROM geom WHERE ST_Contains(g, @p);
※別府市役所の位置は5番目の領域内にある。
+---+
| id | t
+---+
| 5 | 岡山・熊本・福岡・北九州・広島
+---+
1 row in set (0.01 sec)
mysql> EXPLAIN SELECT id, t FROM geom WHERE ST Contains(q, @p);
※フルスキャンになっている。
| id | select_type | table | partitions | type | possible_keys | key | key_len | ref | rows
| filtered | Extra |
+----+
| 1 | SIMPLE | geom | NULL | ALL | NULL
                                         | NULL | NULL | NULL | 5
| 100.00 | Using where |
+----+
1 row in set, 1 warning (0.00 sec)
mysql> ALTER TABLE geom ADD SPATIAL INDEX(g);
※ R-tree インデックスを作成。
Query OK, 0 rows affected (0.02 sec)
Records: 0 Duplicates: 0 Warnings: 0
mysql> EXPLAIN SELECT id, t FROM geom WHERE ST Contains(q, @p);
```

```
※1行に絞り込まれた。
| id | select_type | table | partitions | type | possible_keys | key | key_len | ref | rows
| filtered | Extra |
| 1 | SIMPLE | geom | NULL | range | g
                                | g | 34 | NULL | 1
| 100.00 | Using where |
-+----
1 row in set, 1 warning (0.00 sec)
mysql> SET @p = ST_GeomFromText('POINT(39.701956 141.15433)', 4326);
Query OK, 0 rows affected (0.00 sec)
mysql> SELECT id, t FROM geom WHERE ST_Contains(g, @p);
※盛岡市役所の位置は、どの領域の範囲内にもない(1番目の領域からわずかに東に外れた位置にある)。
Empty set (0.00 sec)
mysql> SELECT id, t FROM geom WHERE MBRContains(g, @p);
※ MBR では外接する矩形を境界に用いて判定するため、「範囲内」にあたる領域が広くなる。
| id | t
| 1 | 札幌・仙台・新潟 |
+---+
1 row in set (0.00 sec)
```

6.2 その他の GIS 新機能

CREATE SPATIAL REFERENCE SYSTEM ステートメント

- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/create-spatial-reference-system.html
- https://mysqlserverteam.com/creating-your-own-spatial-reference-systems-in-mysql-8-0/

DROP SPATIAL REFERENCE SYSTEM ステートメント

• https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/drop-spatial-reference-system.html

シェープファイル・GeoJSON ファイルのインポート

- https://speakerdeck.com/yoshiakiyamasaki/mysql-8-dot-0deqiang-hua-saretagisji-neng-toshi-yong-shi-li-falseshao-jie-siepuhuairutogeojsonhuairufalseinpotoshou-shun-nituite
- https://qiita.com/miyauchi/items/c8349e1e6339bdf26a20

6.3 リンク集 URL



図 6.1: https://hmatsu47.hatenablog.com/book_mysql80_061

第7章

レプリケーションの新機能

7.1 バイナリログ/リレーログ暗号化

MySQL 8.0 では InnoDB のテーブルおよび各種ログファイルの透過的暗号化サポートが進んでいますが、バイナリログとリレーログの暗号化にも対応しました。

公式リファレンスマニュアル

- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/replication-binlog-encryption.html
- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/alter-instance.html
 - マスターキーのローテーション (ALTER INSTANCE)

ブログ記事等

- https://www.s-style.co.jp/blog/2019/03/3771/
- https://mysqlhighavailability.com/binary-log-encryption-at-rest/
- $\bullet \ \ https://mysqlhighavailability.com/how-to-manually-decrypt-an-encrypted-binary-log-file/$
- $\bullet \ \ https://mysqlhighavailability.com/rotating-binary-log-master-key-online/$
 - マスターキーのローテーション
- $\bullet \ \, \text{https://mysqlhighavailability.com/binary-log-encryption-encryption-of-temporary-capture-files/} \\$
 - Temporary Capture Files (変更キャプチャファイル)*1の暗号化をサポート (8.0.17)
- 著者ブログ
 - https://qiita.com/hmatsu47/items/96980d508f79f9510aa2

7.1.1 実行例

第8章 InnoDB とオプティマイザの新機能 8.2 InnoDB「テーブルスペース/ Redo・Undo ログと一般テーブルスペースの暗号化」を参考に、あらかじめキーリング用プラグインの導入を行っておきます。 次に、Master・Slave それぞれのサーバの/etc/my.cnf にレプリケーション関連の設定を記述します。

Master 側設定(関連部分のみ)

リスト 7.1: /etc/my.cnf

```
server-id=1
binlog_format=MIXED
# バイナリログ形式を MIXED に変更しているのは暗号化の確認をしやすくするため。実運用では ROW 推奨。
binlog_encryption=ON
binlog_rotate_encryption_master_key_at_startup=ON
```

Slave 側設定 (同上)

リスト 7.2: /etc/my.cnf

```
server-id=2
binlog_format=MIXED
binlog_encryption=ON
binlog_rotate_encryption_master_key_at_startup=ON
super_read_only
#skip-slave-start
```

なお、Slave を Master のディスクイメージからコピーして立てた場合、レプリケーション開始時にエラーが発生することがあります。データディレクトリにある auto.cnf の server-uuid が重複していることが原因かもしれません。

その場合、auto.cnf を削除してからサーバを起動すると server-uuid が自動生成され、正しくレプリケーションを開始することができます。

Master 側操作

```
mysql> CREATE DATABASE enc test;
Query OK, 1 row affected (0.01 sec)
mysql> USE enc_test;
Database changed
mysql> CREATE TABLE enc_test (id int(10) PRIMARY KEY AUTO_INCREMENT, value VARCHAR(100)) ENGIN
E=innodb ENCRYPTION='Y';
※テストテーブルを作成する。ファイルシステム検索で紛らわしくないよう暗号化テーブルで。
Query OK, 0 rows affected (0.03 sec)
mysql> INSERT INTO enc_test SET value='hoge';
※テストデータを挿入する。
Query OK, 1 row affected (0.00 sec)
mysql> INSERT INTO enc_test SET value='fuga';
Query OK, 1 row affected (0.00 sec)
※ここで OS Shell からファイルシステムに対し hoge・fuga を grep 検索しても引っかからないことが確認できる。
mysql> SHOW BINARY LOGS;
※ Encrypted が Yes になっている。
```

Slave 側操作

Master 側と同様に mysql コマンドを root ユーザで操作します。

```
mysql> CHANGE MASTER TO
   -> MASTER_HOST='【ホスト名】',
-> MASTER_USER='repl',
        {\it MASTER\_PASSWORD='T35+U53r'},
   ->
        MASTER_LOG_FILE='binlog.000001',
   ->
   -> MASTER_LOG_POS=4;
Query OK, 0 rows affected, 2 warnings (0.01 sec)
※ warnings の内容については著者ブログを参照。
mysql> START SLAVE;
Query OK, 0 rows affected (0.00 sec)
mysql> SHOW SLAVE STATUS\G
Slave_IO_State: Waiting for master to send event
 (中略)
                 Last_Errno: 1410
                 Last_Error: Error 'You are not allowed to create a user with GRANT' on quer
y. Default database: ''. Query: 'GRANT REPLICATION SLAVE ON *.* TO 'repl'@'%''
 (中略)
       Seconds_Behind_Master: NULL
Master_SSL_Verify_Server_Cert: No
             Last_SQL_Errno: 1410
             Last_SQL_Error: Error 'You are not allowed to create a user with GRANT' on quer
y. Default database: ''. Query: 'GRANT REPLICATION SLAVE ON *.* TO 'repl'@'%''
 Replicate_Ignore_Server_Ids:
           Master_Server_Id: 1
(中略)
       Get_master_public_key: 0
1 row in set (0.00 sec)
※先ほど Master でユーザを作成したことが原因。Slave で同じユーザを作成する必要はないのでスキップする。
mysql> SET GLOBAL SQL SLAVE SKIP COUNTER=1;
Query OK, 0 rows affected (0.00 sec)
```

```
mysal> START SLAVE:
Query OK, 0 rows affected (0.00 sec)
mysql> SHOW SLAVE STATUS\G
Slave_IO_State: Waiting for master to send event
 (中略)
           Master_Log_File: binlog.000001
        Read_Master_Log_Pos: 1856
 (中略)
      Seconds_Behind_Master: 0
 (中略)
             Last_IO_Errno: 0
            Last_IO_Error:
            Last_SQL_Errno: 0
            Last_SQL_Error:
 (中略)
      Get_master_public_key: 0
1 row in set (0.00 sec)
※今度は成功。ここでファイルシステムに対し hoge・fuga を grep 検索しても引っかからないことが確認できる。
```

7.2 バイナリログ有効期限の指定方法変更

細かい点ですが、原則として日単位ではなく秒単位で有効期限を設定する仕様になったのでご注意ください。なお、MySQL 8.0 の DMR / RC 版を試した経験がある方は、GA 前に二度の仕様変更があった点にもご注意ください。

公式リファレンスマニュアル

• https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/replication-options-binary-log.html sysvar binlog expire logs seconds

ブログ記事等

• https://yoku0825.blogspot.com/2018/04/mysql-803-expirelogsdays.html

7.3 InnoDB Cluster

InnoDB Cluster は MySQL 5.7 で導入された MySQL の高可用性ソリューションです。 グループレプリケーション・MySQL Router・MySQL Shell の 3 つのコンポーネントで構成されています。

公式リファレンスマニュアル

- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/mysql-innodb-cluster-userguide.html
- $\bullet \ https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/mysql-innodb-cluster-working-with-cluster.html$

ブログ記事等

- https://www.s-style.co.jp/blog/2018/11/2722/
- https://www.s-style.co.jp/blog/2018/11/2890/
- https://www.s-style.co.jp/blog/2018/11/2899/
- https://www.s-style.co.jp/blog/2018/11/2904/
- https://www.s-style.co.jp/blog/2018/12/2962/
- $\bullet \ \, \rm https://www.s-style.co.jp/blog/2018/12/3028/$
- $\bullet \ \ https://www.s-style.co.jp/blog/2019/02/3489/$
- https://mysqlserverteam.com/mysql-shell-8-0-whats-new/
 - InnoDB Cluster Improvements
- https://mysqlserverteam.com/mysql-innodb-cluster-changing-cluster-topology-modes-live/
 - InnoDB Cluster 用のリモート MySQL サーバの設定と再設定
 - 拡張 Cluster ステータス表示(複製遅延時間を含む)
 - InnoDB Cluster での手動によるプライマリスイッチオーバーとトポロジの再設定
 - より多くのユースケースと環境のための高度なクラスターのカスタマイズ

なお、8.0.17 でクローンプラグインとの組み合わせで自動ノードプロビジョニングをサポートしました。

ブログ記事等

- https://mysqlhighavailability.com/mysql-innodb-cluster-automatic-node-provisioning/
- $\bullet \ \ https://mysqlhighavailability.com/a-breakthrough-in-usability-automatic-node-provisioning/$

7.4 グループレプリケーション

グループレプリケーションは、Master サーバの冗長化を目的として MySQL 5.7 から導入された機能です。InnoDB Cluster のベースとなる機能の 1 つです。

詳細は、公式リファレンスマニュアルおよびブログ記事等(注: MySQL 5.7 時点のものです)を確認してください。

公式リファレンスマニュアル

• https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/group-replication.html

ブログ記事等

- http://mita2db.blogspot.com/2016/12/group-replication-1.html
- http://mita2db.blogspot.com/2017/01/group-replication-2.html
- http://mita2db.blogspot.com/2017/01/group-replication-3.html
- http://mita2db.blogspot.com/2017/01/group-replication-4.html

7.4.1 グループレプリケーションの新機能

オンラインおよびユーザーによるプライマリ切り替え/選出(Election)

- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/group-replication-changing-primary-member.html
- $\bullet \ \ https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/group-replication-functions-for-new-primary.html$

オンラインおよびユーザーによるシングルプライマリ/マルチプライマリの切り替え

- $\bullet \ \ https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/group-replication-changing-group-mode.html$
- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/group-replication-functions-for-mode.html

サーバがグループから削除されたときにサーバをシャットダウンする

- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/group-replication-options.html# sysvar_group_replication_exit_state_action
 - -8.0.16 から初期値が変更になっているので注意(8.0.15 まで ABORT_SERVER、8.0.16 から READ_ONLY)

応答のないメンバーをグループから追放

• https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/group-replication-options.html# sysvar_group_replication_member_expel_timeout

メンバーのグループ追放・コンタクト不能時自動再試行回数

• https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/group-replication-options.html# sysvar_group_replication_autorejoin_tries

プライマリフェイルオーバー時の一貫読み取り

• https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/group-replication-options.html# sysvar_group_replication_consistency

プライマリフェイルオーバー候補の優先順位設定

- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/group-replication-options.html# sysvar_group_replication_member_weight
- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/group-replication-single-primary-mode.html

メンバーの書き込み許可を自動で OFF (super_read_only のチェック)

- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/group-replication-adding-instances.html
 Tip 「When Group Replication starts successfully and the server joins the group …」
- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/start-group-replication.html
- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/stop-group-replication.html

複数バージョンが混在するグループの運用性を向上

- $\bullet \ \, \text{https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/group-replication-online-upgrade-combining-versions.html} \\$
- $\bullet \ \, \text{https://mysqlhighavailability.com/improved-handling-of-different-member-versions-in-group-replication/} \\$

メンバーのオンラインアップデート

 $\bullet \ https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/group-replication-online-upgrade-methods.html$

グループレプリケーションでの自動プロビジョニング

• https://mysqlhighavailability.com/automatic-provisioning-in-group-replication/

IPv6 のサポート

- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/ipv6-support.html
- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/group-replication-ipv6.html

フロー制御を微調整するためのオプション

- $\bullet \ https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/group-replication-flow-control.html$
- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/group-replication-options.html# sysvar_group_replication_flow_control_applier_threshold
- $https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/group-replication-options.html \# sysvar_group_replication_flow_control_certifier_threshold$
- $https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/group-replication-options.html \# sysvar_group_replication_flow_control_hold_percent$
- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/group-replication-options.html# sysvar_group_replication_flow_control_max_commit_quota
- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/group-replication-options.html# sysvar_group_replication_flow_control_member_quota_percent
- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/group-replication-options.html# sysvar_group_replication_flow_control_min_quota
- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/group-replication-options.html# sysvar_group_replication_flow_control_min_recovery_quota

ホワイトリストでのホスト名のサポート

• https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/group-replication-ip-address-whitelisting.html

設定可能なメッセージングパイプライン

 $\bullet \ https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/group-replication-group-write-consensus.html$

 $\bullet \ \, \text{https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/group-replication-functions-for-maximum-consensus.html} \\$

メッセージ受け渡しのトレース

• https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/group-replication-options.html# sysvar_group_replication_communication_debug_options

メッセージの最大サイズとキャッシュサイズ

- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/group-replication-options.html# sysvar group replication communication max message size
- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/group-replication-options.html# sysvar_group_replication_message_cache_size

トランザクションセーブポイントのサポート

- https://mysqlserverteam.com/the-complete-list-of-new-features-in-mysql-8-0/
 - Group Replication 1 項目目
 - リンク先のマニュアルに記載なし

Performance Schema 項目の追加

- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/performance-schema-summary-tables.html
- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/threads-table.html
 - threads.INSTRUMENTED
- \bullet https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/cond-instances-table.html
 - cond instances.INSTRUMENTED
- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/mutex-instances-table.html
 - mutex_instances.INSTRUMENTED
- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/memory-summary-tables.html
 - memory summary global by event name
- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/setup-instruments-table.html
 - setup_instruments (列追加)

同上/グループ全体の認証と Applier 統計のモニタリング

- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/replication-group-member-stats-table.html
- $\bullet \ \ https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/replication-group-members-table.html$

7.5 MySQL Router

MySQL Router はアプリケーションサーバ~MySQL サーバ間の透過的なルーティングを提供する軽量なミドルウェアです。前述の通り InnoDB Cluster の主要コンポーネントの 1 つです。

• https://www.mysql.com/jp/products/enterprise/router.html

7.5.1 MySQL Router の新機能

最後に利用したサーバアドレス等の永続化

 https://dev.mysql.com/doc/mysql-router/8.0/en/mysql-router-conf-options.html# option_mysqlrouter_dynamic_config

接続成功時に max_connect_errors をリセット

 https://dev.mysql.com/doc/mysql-router/8.0/en/mysql-router-conf-options.html# option_mysqlrouter_max_connect_errors

mysqlrouter_plugin_info ツールを追加

• https://dev.mysql.com/doc/mysql-router/8.0/en/mysqlrouter_plugin_info.html

メタデータキャッシュの TTL を 300 秒から 500 ミリ秒に短縮

 https://dev.mysql.com/doc/mysql-router/8.0/en/mysql-router-conf-options.html# option_mysqlrouter_ttl

ルーティングストラテジを追加 (routing_strategy オプション)

• $https://dev.mysql.com/doc/mysql-router/8.0/en/mysql-router-conf-options.html \# option_mysqlrouter_routing_strategy$

起動オプション--report-host を追加

 https://dev.mysql.com/doc/mysql-router/8.0/en/mysqlrouter.html# option_mysqlrouter_report-host

起動オプション--account-host を追加

 https://dev.mysql.com/doc/mysql-router/8.0/en/mysqlrouter.html# option_mysqlrouter_account-host

プライマリからセカンダリに降格したサーバーノードへのクライアント接続を解除

• $https://dev.mysql.com/doc/mysql-router/8.0/en/mysql-router-conf-options.html \# option_mysqlrouter_destinations$

HTTP サーバプラグインと REST API

• https://lefred.be/content/mysqlrouter-8-0-17-and-the-rest-api/

MySQL Server のソースツリーの一部として Router を構築

• https://dev.mysql.com/worklog/task/?id=10799

7.6 MySQL Shell

MySQL 5.7 で導入された MySQL Shell も機能向上しています*2。

InnoDB Cluster に対する MySQL 8.0 のサポート

• 前述 (InnoDB Cluster のセクションを参照)。

新しい管理 API

 $\bullet \ \, \text{https://mysqlserverteam.com/mysql-innodb-cluster-whats-new-in-shell-adminapi-8-0-17-release/} \\$

新しい Shell プラグイン構造

• https://mysqlserverteam.com/mysql-shell-plugins-introduction/

Clone Plugin (クローンプラグイン)

別ノードへのデータのオンラインコピーや自動プロビジョニングがサポートされました。

- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/clone-plugin.html
- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/mysql-innodb-cluster-clone-prerequisites.html
- https://mysqlserverteam.com/clone-create-mysql-instance-replica/
- https://yoku0825.blogspot.com/2019/07/mysql-8017clone.html
- https://yoku0825.blogspot.com/2019/07/mysql-8017clone-instance-from.html
- https://qiita.com/huato/items/5ad03b37313c0b41efbc

Parallel Table Import Utility (パラレルテーブルインポートユーティリティ)

- https://dev.mysql.com/doc/mysql-shell/8.0/en/mysql-shell-utilities-parallel-table.html
- https://elephantdolphin.blogspot.com/2019/08/parallel-table-importer-in-mysql-shell.html

セキュアなパスワード管理

- https://dev.mysql.com/doc/mysql-shell/8.0/en/mysql-shell-pluggable-password-store.html
- https://mysqlserverteam.com/mysql-shell-8-0-12-whats-new/
 - Pluggable Password Store

^{*2} InnoDB Cluster のコンポーネントの 1 つですので、この章で説明します。

改善された組み込みヘルプ

- $\bullet \ \, https://mysqlserverteam.com/mysql-shell-8-0-12-whats-new/$
 - Centralized Help System

クエリ結果におけるカラムタイプ表示

- https://mysglserverteam.com/mysgl-shell-8-0-14-whats-new/
 - √Ability to show column type information when executing SQL. J

X DevAPI サポートをアップデート

• https://dev.mysql.com/doc/x-devapi-userguide/en/

スクリーンページング

• https://dev.mysql.com/doc/mysql-shell/8.0/en/mysql-shell-using-pager.html

自動補完

- https://mysqlserverteam.com/mysql-shell-8-0-whats-new/
 - Auto-Completion

カスタマイズ可能なプロンプト

- https://mysqlserverteam.com/mysql-shell-8-0-whats-new/
 - Prompt Themes

コマンド履歴永続化

- https://mysqlserverteam.com/mysql-shell-8-0-whats-new/
 - Command Line History Persistence

シェル API の直接コマンドライン実行

• https://mysqlserverteam.com/mysql-shell-api-command-line-integration-for-devops/

7.7 その他のレプリケーション新機能・変更

チャネルフィルタ毎のマルチソースレプリケーション

- $\bullet \ https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/replication-rules-channel-based-filters.html$
- https://gihyo.jp/dev/serial/01/mysql-road-construction-news/0088

トランザクション内テンポラリテーブルの GTID サポート

• https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/replication-gtids-restrictions.html

JSON 列の部分アップデート対応レプリケーション

• $https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/replication-options-binary-log.html \# sysvar_binlog_row_value_options$

RESET MASTER TO

• https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/reset-master.html

CHANGE MASTER TO のホスト名が 255 文字まで指定可能に

- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/change-master-to.html
 - MASTER_HOST オプション

書き込みセットベースのトランザクション依存関係追跡

- $https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/replication-options-binary-log.html \# sysvar_binlog_transaction_dependency_tracking$
- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/replication-options-slave.html# option_mysqld_slave-parallel-type

受信側スレッドと適用側スレッドの間の競合の削減

- https://dev.mysql.com/doc/relnotes/mysql/8.0/en/news-8-0-1.html
 - To avoid potential race conditions, …」

拡張テーブルメタデータのバイナリログ記録

- $https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/replication-options-binary-log.html \# sysvar_binlog_row_metadata$
- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/mysqlbinlog.html# option_mysqlbinlog_print-table-metadata

GTID_EXECUTED が空でない場合に設定可能な GTID_PURGED

 https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/replication-options-gtids.html# sysvar_gtid_purged

空き容量がなくなったときの安全(ノンブロッキング)なレプリケーションモニタリング

- https://dev.mysql.com/doc/relnotes/mysql/8.0/en/news-8-0-2.html
 - 「Replication: The receiver thread has been improved to no longer block other thread's \cdots \mid

トランザクション長のバイナリログへの記録

- https://dev.mysql.com/doc/relnotes/mysql/8.0/en/news-8-0-2.html
 - ¬Replication: A new transaction length field has been added to the Gtid_log_event · · · J

各トランザクションのサーババージョンをバイナリログに記録

- $\bullet \ \ https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/replication-compatibility.html$
 - From MySQL 8.0.14, the server version is recorded in the binary log…」
- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/replication-options-master.html# sysvar original server version
- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/replication-options-master.html# sysvar_immediate_server_version

START SLAVE UNTIL (マルチスレッドレプリケーションへの対応)

 $\bullet \ \, \rm https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/start-slave.html$

遅延レプリケーションのマイクロ秒対応

- $\bullet \ \ https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/replication-delayed.html$
 - \[\text{original_commit_timestamp: the number of microseconds since epoch when \(\cdots \) \]

binlog-row-event-max-size システム変数

 https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/replication-options-binary-log.html# option_mysqld_binlog-row-event-max-size

バイナリログキャッシュサイズの指定

- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/replication-options-binary-log.html# sysvar binlog cache size
- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/replication-options-binary-log.html# sysvar_binlog_stmt_cache_size

mysqlbinlog で圧縮をサポート

- $\label{lem:https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/mysqlbinlog.html\# option_mysqlbinlog_compress}$
 - 8.0.18 でオプションの指定方法が変わる予定。
- https://mysqlhighavailability.com/mysqlbinlog-support-for-protocol-compression/

7.8 リンク集 URL



図 7.1: https://hmatsu47.hatenablog.com/book_mysql80_071

第8章

オプティマイザと InnoDB の新機能

8.1 オプティマイザ

MySQL 8.0 では、SQL の実行計画を最適化するオプティマイザが進化しました。

【注】「非公式 MySQL 8.0 オプティマイザガイド」という非常に有用な資料があります。ご確認ください。

• https://yakst.github.io/unofficialmysqlguide-ja/

8.1.1 ヒストグラム

カラム値のヒストグラム統計を使い、インデックスがないカラムでも値の分布から行の絞り込みを可能にする機能です。RDBMS によってはインデックスの一種としてヒストグラムを利用するものがありますが、MySQL~8.0 ではインデックスとは別の機能として提供されます。

公式リファレンスマニュアル

- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/optimizer-statistics.html
- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/analyze-table.html# analyze-table-histogram-statistics-analysis
- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/server-system-variables.html# sysvar_histogram_generation_max_mem_size

ブログ記事等

- https://yakst.com/ja/posts/4873
- http://masato.ushio.org/blog/index.php/2017/09/25/uco-tech_mysql-8-0-rc-histogram-optimizing/
- 著者ブログ
 - https://qiita.com/hmatsu47/items/3cfc6762bca766c5d9a1

8.1.2 メモリとディスクの I/O コスト

MySQL 5.7 までは、データページをメモリ(バッファプール)から読み取る場合もディスクから読み出す場合も同じコストが掛かるものとしてコスト計算を行っていました。MySQL 8.0 では、メモリとディスクのコスト係数を別々に設定してコスト計算を行うことができるようになりました。

公式リファレンスマニュアル

- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/cost-model.html
 メモリとディスクの I/O コスト係数を分離
- $\bullet \ \ https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/cost-model.html\#cost-model-database$
 - コスト係数テーブルの初期値

ブログ記事等

- 著者ブログ
 - https://giita.com/hmatsu47/items/d53b0471c8f279130114

8.1.3 FORCE INDEX 時に不要なインデックスダイブを回避

FORCE INDEX を指定した場合のインデックス走査が効率的になりました。

公式リファレンスマニュアル

- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/range-optimization.html# equality-range-optimization
 - ^{In MySQL 8.0}, index dive skipping is possible for queries that satisfy all ···」

ブログ記事等

https://mysqlserverteam.com/optimization-to-skip-index-dives-with-force-index/

8.1.4 ヒント句

新しいヒント句が追加されました。

公式リファレンスマニュアル

- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/optimizer-hints.html# optimizer-hints-table-level
 - MERGE, NO_MERGE
- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/optimizer-hints.html# optimizer-hints-index-level
 - INDEX_MERGE, NO_INDEX_MERGE

- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/optimizer-hints.html# optimizer-hints-join-order
 - JOIN_FIXED_ORDER
 - JOIN_ORDER
 - JOIN_PREFIX
 - JOIN_SUFFIX
- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/optimizer-hints.html# optimizer-hints-subquery
 - SEMIJOIN, NO_SEMIJOIN
- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/optimizer-hints.html# optimizer-hints-set-var
 - SET_VAR

ブログ記事等

- https://yoku0825.blogspot.com/2017/04/mysql-801joinorder.html
- http://variable.jp/2017/09/28/mysql8-0%E3%81%AB%E3%81%8A%E3%81%91%E3%82%8B %E3%83%92%E3%83%B3%E3%83%88%E5%8F%A5%E3%81%AE%E6%8B%A1%E5%BC%B5/

8.1.5 Skip Scan Range Access Method

複合インデックスの1番目の列が検索条件に入っていない場合に当該インデックスを利用して検索する仕組みです。

公式リファレンスマニュアル

- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/range-optimization.html# range-access-skip-scan

ブログ記事等

- 著者ブログ
 - $-\ https://qiita.com/hmatsu47/items/d83bda0360728d4f585a$

■コラム: 暗黙の GROUP BY ソートの廃止

以下のリンクの通り MySQL 5.6 の時点で非推奨とされていましたが、暗黙の GROUP BY ソートは MySQL 8.0 で廃止になっています。

- https://dev.mysql.com/doc/refman/5.6/ja/order-by-optimization.html
 - 注記「MySQL 5.6 における暗黙の GROUP BY ソートへの依存は…」

8.2 InnoDB

MySQL 8.0 では、地味なものが多いですが InnoDB も細かい改良が進んでいます。

8.2.1 新しいロック: NOWAIT / SKIP LOCKED

SELECT \sim FOR UPDATE 等によって行ロックの獲得を試みてすぐに獲得できなかったとき、獲得を待たずに処理を進める機能が追加されました。

詳細は公式リファレンスマニュアルとブログ記事等をご確認ください。

公式リファレンスマニュアル

 https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/innodb-locking-reads.html# innodb-locking-reads-nowait-skip-locked

ブログ記事等

- https://mysqlserverteam.com/mysql-8-0-1-using-skip-locked-and-nowait-to-handle-hot-rows/
- https://yoku0825.blogspot.com/2018/04/mysql-80-select-for-update-skip-locked.html

8.2.2 ノンロッキング並列読み取り

MySQL 8.0.15 時点では CHECK TABLE・SELECT COUNT(*) など利用可能なケースがかなり限られますが、並列読み取り(パラレルスキャン)に対応しました。

公式リファレンスマニュアル

- $\bullet \ \, \text{https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/check-table.html\#check-table-innodberger} \, \\$
 - $\lceil As$ of MySQL 8.0.14, InnoDB supports parallel clustered index reads, $\cdots \rfloor$
- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/innodb-parameters.html# sysvar_innodb_parallel_read_threads

ブログ記事等

- http://atsuizo.hatenadiary.jp/entry/2019/01/23/112608
- http://atsuizo.hatenadiary.jp/entry/2019/01/24/090000
- http://atsuizo.hatenadiary.jp/entry/2019/01/26/090000
- http://atsuizo.hatenadiary.jp/entry/2019/01/28/090000
- http://atsuizo.hatenadiary.jp/entry/2019/01/29/090000
 - グループ化せずに SELECT COUNT(∗) を高速化

8.2.3 AUTO_INCREMENT 値の永続化

MySQL 5.7 まではサーバを再起動すると各テーブルの AUTO_INCREMENT 値が「最大の値を持つ行の次の値」 *1 に自動的に設定されていました。これにより、行削除やトランザクションのロールバックなどが原因で AUTO_INCREMENT 列の値に空き番号が存在した場合に番号が巻き戻ることがありましたが、MySQL 8.0 では正しく AUTO INCREMENT 値を保持するようになりました。

公式リファレンスマニュアル

• https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/innodb-auto-increment-handling.html# innodb-auto-increment-initialization

ブログ記事等

- https://www.s-style.co.jp/blog/2018/08/2284/
- 著者ブログ
 - https://giita.com/hmatsu47/items/4429171c1bbaba564774

8.2.4 テーブルスペース/ Redo・Undo ログ/一般テーブルスペース/システムテーブルの暗号化

MySQL 5.7 ではテーブルスペースだけが対象だった透過的暗号化機能が、MySQL 8.0 では

- Redo ログ
- Undo ログ
- 一般テーブルスペース
- バイナリログ/リレーログ(第7章参照)
- システムテーブル (mysql スキーマ)

まで対象が増えました。

公式リファレンスマニュアル

- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/innodb-tablespace-encryption.html
 透過的暗号化(TDE)全体の解説
- $\bullet \ https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/innodb-tablespace-encryption.html \# innodb-tablespace-encryption-redo-log$
 - Redo ログ暗号化
- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/innodb-tablespace-encryption.html# innodb-tablespace-encryption-undo-log
 - Undo ログ暗号化
- $\bullet \ https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/innodb-tablespace-encryption.html \# innodb-general-tablespace-encryption-enabling-disabling \\$
 - 一般テーブルスペース暗号化

^{*1} Cluster 構成でない通常の状態では最大値 +1 です。

- - システムテーブル暗号化

ブログ記事等

- $\bullet \ https://mysqlserverteam.com/mysql-8-0-13-innodb-transparent-tablespace-encryption-for-general-tablespaces/ \\$
- 著者ブログ
 - https://qiita.com/hmatsu47/items/bae53fd0f6d09511732c
 - https://qiita.com/hmatsu47/items/f3519532c134ba0018af

実行例

テーブルスペース/ Redo・Undo ログ/システムテーブル暗号化の実行例です。一般テーブルスペース 暗号化についてはブログ記事等の 1 つ目または著者ブログの 2 つ目をご確認ください。バイナリログ/リレーログ暗号化については第 7 章 レプリケーションの新機能 7.1 バイナリログ/リレーログ暗号化をご確認ください。

まず、/etc/my.cnf に設定を追加します。

リスト 8.1: /etc/my.cnf 追記部分

```
early-plugin-load=keyring_file.so
keyring_file_data=/var/lib/mysql-keyring/keyring
innodb_doublewrite=0
# ダブルライトを無効にしないとダブルライトバッファに平文で書き出されてしまうため。
innodb_redo_log_encrypt=1
innodb_undo_log_encrypt=1
```

次にサーバを再起動します。再起動後、暗号化テーブルを作成してみます。

```
mysql> CREATE TABLE enc_test (id int(10) PRIMARY KEY AUTO_INCREMENT, value VARCHAR(100)) ENGIN E=innodb ENCRYPTION='Y';
Query OK, O rows affected (0.02 sec)

mysql> INSERT INTO enc_test SET value='1234567890ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTabcdefghijklmnopqrst1234567890ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTabcdefghijklmnopqrst';
Query OK, 1 row affected (0.01 sec)

**複数行入れておく。

mysql> SET AUTOCOMMIT=0;
Query OK, O rows affected (0.00 sec)

mysql> UPDATE enc_test SET value='ENCRYPTED' WHERE id=1;
Query OK, 1 row affected (0.00 sec)
Rows matched: 1 Changed: 1 Warnings: 0

mysql> COMMIT;
```

Query OK, 0 rows affected (0.01 sec)
※ここで OS Shell からファイルシステムに対し ENCRYPTED を grep 検索しても見つからないことが確認できる。但 しテーブル名の enc_test を grep 検索すると見つかる。

mysql> ALTER TABLESPACE mysql ENCRYPTION = 'Y';
Query OK, 0 rows affected (0.21 sec)
※ここで OS Shell からファイルシステムに対し enc_test を grep 検索すると見つからなくなったことが確認できる。

8.2.5 その他の InnoDB 新機能

CREATE / ALTER / DROP UNDO TABLESPACE

- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/innodb-undo-tablespaces.html #innodb-add-undo-tablespaces
- $\bullet \ https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/innodb-undo-tablespaces.html \# innodb-drop-undo-tablespaces \\$
- https://mysqlserverteam.com/new-in-mysql-8-0-14-create-undo-tablespace/

適応型のスキャンバッファサイズ調整

• https://dev.mysql.com/worklog/task/?id=7093

ストレージエンジン API におけるサンプリングインターフェース

- https://dev.mysql.com/doc/dev/mysql-server/8.0.14/classhandler.html# a684f7429844b6a5061d5942e6f12b573
- https://dev.mysql.com/doc/dev/mysql-server/8.0.14/classhandler.html# a167d4bd2f1c5f353d77ed08dbed4c04a
- https://dev.mysql.com/doc/dev/mysql-server/8.0.14/sql_2handler_8h.html# ae954cfd46ba0b8300368dccf2bebc842

デフォルトのオプティマイザトレースバッファ容量の拡大

 https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/server-system-variables.html# sysvar_optimizer_trace_max_mem_size

LIKE 検索時の部分インデックスの適正利用

- https://dev.mysql.com/doc/relnotes/mysql/8.0/en/news-8-0-11.html
 - When using a partial index, the optimizer performed a more expensive table lookup \cdots
- https://bugs.mysql.com/bug.php?id=74359

INSERT / UPDATE / REPLACE / DELETE に対する EXPLAIN EXTENDED

- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/explain-extended.html
 - $\lceil As$ of MySQL 8.0.12, extended information is available for SELECT, DELETE, INSERT, $\cdots \rfloor$

ラッチフリーでスケーラブルな Redo ログ

- https://dev.mysql.com/worklog/task/?id=10310
- https://mysqlserverteam.com/mysql-8-0-new-lock-free-scalable-wal-design/

Redo ログアーカイブ処理

- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/innodb-redo-log.html# innodb-redo-log-archiving
- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/innodb-parameters.html# sysvar_innodb_redo_log_archive_dirs

IN・EXISTS サブクエリのアンチジョイン・セミジョイン最適化

• https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/semijoins.html

LOB 列の再設計・改良による高速化

- https://dev.mysql.com/worklog/task/?id=8960
- https://mysqlserverteam.com/mysql-8-0-innodb-introduces-lob-index-for-faster-updates/
- https://mysqlserverteam.com/mysql-8-0-mvcc-of-large-objects-in-innodb/
- https://mysqlserverteam.com/mysql-8-0-optimizing-small-partial-update-of-lob-in-innodb/

CATS(新しいロックスケジューラ)

- http://masato.ushio.org/blog/index.php/2018/03/04/uco-tech_mysql-8-0_trx_scheduling_cats/
- $\bullet \ https://mysqlserverteam.com/contention-aware-transaction-scheduling-arriving-in-innodb-to-boost-performance/ \\$

InnoDB テーブルスペースバージョン管理サポート(アップグレード/ダウングレード用)

• https://dev.mysql.com/worklog/task/?id=5989

シリアライズ辞書情報(SDI)を持つ自己記述型テーブルスペースと管理ツール

- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/glossary.html# glos_serialized_dictionary_information
- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/ibd2sdi.html
- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/serialized-dictionary-information.html

バッファプールの Mutex 削除

• https://dev.mysql.com/worklog/task/?id=8423

パージの改善

• https://dev.mysql.com/worklog/task/?id=9387

デッドロック検出を自動的に有効化/無効化

• https://dev.mysql.com/worklog/task/?id=9383

オフラインでの DB ポータビリティ提供(.isl ファイル不要化)

• https://dev.mysql.com/worklog/task/?id=8619

より小さなコアファイルを生成するための新設定

 $\bullet \ \ https://mysqlserverteam.com/mysql-8-0-excluding-the-buffer-pool-from-a-core-file/$

パーティションテーブルの共有テーブル領域を非推奨に

• https://dev.mysql.com/worklog/task/?id=11571

テンポラリテーブルが占有しているオンラインディスクスペースをオンラインで再利用

• https://dev.mysql.com/worklog/task/?id=11613

XA トランザクションロールバック時の権限チェック

• https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/xa.html

8.3 リンク集 URL



図 8.1: https://hmatsu47.hatenablog.com/book_mysql80_081

第9章

Information Schema・Performance Schema の変更と新機能

MySQL 8.0 における機能追加や変更、およびデータディクショナリの InnoDB 化に合わせて、Information Schema・Performance Schema にも大幅な変更が加えられました。

9.1 Information Schema

主なものを示します。

9.1.1 全般

ブログ記事等

- http://next4us-ti.hatenablog.com/entry/2018/11/14/175647
 - 廃止されたものと追加されたもの
- https://mysqlserverteam.com/mysql-8-0-improvements-to-information_schema/
- https://mysqlserverteam.com/further-improvements-on-information_schema-in-mysql-8-0- 3/

9.1.2 データディクショナリテーブルと INFORMATION_SCHEMA 内テーブルの統合

公式リファレンスマニュアル

• https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/data-dictionary-information-schema.html

9.1.3 新規追加テーブル

公式リファレンスマニュアル

- $\bullet \ \ https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/view-table-usage-table.html$
 - VIEW_TABLE_USAGE
- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/view-routine-usage-table.html
 - VIEW_ROUTINE_USAGE
- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/keywords-table.html
 - KEYWORDS

- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/column-statistics-table.html
 - COLUMN STATISTICS
- $\bullet \ \ https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/st-geometry-columns-table.html$
 - ST GEOMETRY COLUMNS
- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/st-spatial-reference-systems-table.html
 - ST_SPATIAL_REFERENCE_SYSTEMS
- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/st-units-of-measure-table.html
 - ST_UNITS_OF_MEASURE

ブログ記事等

- https://www.s-style.co.jp/blog/2018/08/2270/
 - INNODB CACHED INDEXES

9.1.4 その他の Information Schema 変更

公式リファレンスマニュアル

- $\bullet \ https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/innodb-tablespaces-table.html\\$
 - INNODB_TABLESPACES ∅ SERVER_VERSION
- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/innodb-undo-tablespaces.html
 - SELECT NAME, SUBSYSTEM, COMMENT FROM INFORMATION_SCHEMA.INNODB_METRICS WHERE NAME LIKE '%truncate%';

9.2 Performance Schema

同様に、主なものを示します。

9.2.1 InnoDB ロック関連テーブル等

InnoDB ロック関連テーブル・ビューの構成が大きく変更されました。詳細は著者ブログの記事を確認してください。

公式リファレンスマニュアル

- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/sys-innodb-lock-waits.html
 - InnoDB ロック関連テーブル

ブログ記事等

- 著者ブログ
 - https://qiita.com/hmatsu47/items/607d176e885f098262e8
 - https://qiita.com/hmatsu47/items/b49bc18d49da5c6029e5

実行例

```
※クライアント1で実行(準備)。
mysql> CREATE DATABASE lock test;
Query OK, 1 row affected (0.02 sec)
mysql> USE lock test;
Database changed
mysql> CREATE TABLE lock_test (id int(10) PRIMARY KEY AUTO_INCREMENT, value VARCHAR(100)) ENGI
NE=innodb;
Query OK, 0 rows affected (0.04 sec)
mysql> INSERT INTO lock_test SET value='abc';
Query OK, 1 row affected (0.00 sec)
mysql> INSERT INTO lock_test SET value='def';
Query OK, 1 row affected (0.00 sec)
mysql> INSERT INTO lock test SET value='qhi';
Query OK, 1 row affected (0.00 sec)
mysql> SET AUTOCOMMIT=0;
Query OK, 0 rows affected (0.00 sec)
※クライアント2で実行(準備)。
mysql> USE lock_test;
Reading table information for completion of table and column names
You can turn off this feature to get a quicker startup with -A
Database changed
※クライアント3で実行。ロックが生じていないことを確認。
mysql> SELECT * FROM sys.innodb_lock_waits\G
Empty set (0.02 sec)
\verb|mysql>| \textit{SELECT} * \textit{FROM performance\_schema.data\_locks} \backslash \textit{G}|
Empty set (0.00 sec)
mysql> SELECT * FROM performance_schema.data_lock_waits\G
Empty set (0.00 sec)
※クライアント 1 で実行。UPDATE でロックを発生させる。
mysql> UPDATE lock_test SET value='345' WHERE id>1:
Query OK, 2 rows affected (0.00 sec)
Rows matched: 2 Changed: 2 Warnings: 0
※クライアント3で実行。ロックが生じていることがわかる。
\verb|mysql>|SELECT|*|FROM| sys.innodb_lock_waits | G|
Empty set (0.00 sec)
\verb|mysql>| \textit{SELECT} * \textit{FROM performance\_schema.data\_locks} \backslash \textit{G}
ENGINE: INNODB
       ENGINE_LOCK_ID: 139903578867504:1065:139903459448472
ENGINE_TRANSACTION_ID: 2585
```

```
THREAD ID: 46
           EVENT_ID: 23
       OBJECT_SCHEMA: lock_test
         OBJECT_NAME: lock_test
      PARTITION_NAME: NULL
   SUBPARTITION NAME: NULL
         INDEX NAME: NULL
OBJECT_INSTANCE_BEGIN: 139903459448472
          LOCK_TYPE: TABLE
          LOCK_MODE: IX
        LOCK_STATUS: GRANTED
          LOCK_DATA: NULL
ENGINE: INNODB
      ENGINE_LOCK_ID: 139903578867504:8:4:1:139903459445432
ENGINE_TRANSACTION_ID: 2585
          THREAD_ID: 46
           EVENT_ID: 23
       OBJECT_SCHEMA: lock_test
         OBJECT NAME: lock test
      PARTITION NAME: NULL
   SUBPARTITION NAME: NULL
         INDEX NAME: PRIMARY
OBJECT INSTANCE BEGIN: 139903459445432
          LOCK_TYPE: RECORD
          LOCK_MODE: X
        LOCK_STATUS: GRANTED
          LOCK_DATA: supremum pseudo-record
ENGINE: INNODB
      ENGINE LOCK ID: 139903578867504:8:4:3:139903459445432
ENGINE TRANSACTION ID: 2585
          THREAD_ID: 46
           EVENT_ID: 23
       OBJECT_SCHEMA: lock_test
         OBJECT_NAME: lock_test
      PARTITION_NAME: NULL
   SUBPARTITION NAME: NULL
          INDEX NAME: PRIMARY
OBJECT_INSTANCE_BEGIN: 139903459445432
          LOCK_TYPE: RECORD
          LOCK_MODE: X
        LOCK_STATUS: GRANTED
          LOCK_DATA: 2
************************ 4. row ******************
             ENGINE: INNODB
      ENGINE_LOCK_ID: 139903578867504:8:4:4:139903459445432
ENGINE_TRANSACTION_ID: 2585
          THREAD_ID: 46
           EVENT_ID: 23
       OBJECT_SCHEMA: lock_test
         OBJECT_NAME: lock_test
      PARTITION_NAME: NULL
   SUBPARTITION_NAME: NULL
         INDEX_NAME: PRIMARY
OBJECT_INSTANCE_BEGIN: 139903459445432
          LOCK TYPE: RECORD
```

```
LOCK MODE: X
         LOCK STATUS: GRANTED
           LOCK DATA: 3
4 rows in set (0.00 sec)
\verb|mysql>| \textit{SELECT} * \textit{FROM performance\_schema.data\_lock\_waits} \backslash \textit{G}
Empty set (0.00 sec)
※クライアント 2 で実行。INSERT がロック待ちになる。
mysql> SET AUTOCOMMIT=0;
Query OK, 0 rows affected (0.00 sec)
mysql> INSERT INTO lock test SET value='qhi';
※クライアント3で実行。ロック待ちも確認できる。
mysql> SELECT * FROM sys.innodb_lock_waits\G
wait_started: 2019-05-02 18:35:07
                  wait_age: 00:00:13
              wait age secs: 13
              locked_table: 'lock_test'.'lock_test'
        locked table schema: lock test
          locked_table_name: lock_test
     locked_table_partition: NULL
  locked_table_subpartition: NULL
               locked_index: PRIMARY
                locked_type: RECORD
             waiting_trx_id: 2595
        waiting_trx_started: 2019-05-02 18:35:07
            waiting_trx_age: 00:00:13
    waiting_trx_rows_locked: 1
  waiting_trx_rows_modified: 0
                waiting_pid: 9
              waiting_query: INSERT INTO lock_test SET value='ghi'
            waiting_lock_id: 139903578868400:8:4:1:139903459451384
          waiting_lock_mode: X,INSERT_INTENTION
            blocking_trx_id: 2594
               blocking_pid: 8
             blocking_query: NULL
           blocking_lock_id: 139903578867504:8:4:1:139903459445432
         blocking_lock_mode: X
       blocking_trx_started: 2019-05-02 18:34:54
           blocking_trx_age: 00:00:26
   blocking_trx_rows_locked: 3
 blocking_trx_rows_modified: 2
    sql_kill_blocking_query: KILL QUERY 8
sql_kill_blocking_connection: KILL 8
1 row in set (0.00 sec)
mysql> SELECT * FROM performance_schema.data_locks\G
ENGINE: INNODB
      ENGINE_LOCK_ID: 139903578868400:1065:139903459454424
ENGINE_TRANSACTION_ID: 2595
           THREAD_ID: 47
           EVENT_ID: 15
       OBJECT SCHEMA: lock test
```

```
OBJECT NAME: lock test
      PARTITION_NAME: NULL
   SUBPARTITION_NAME: NULL
         INDEX_NAME: NULL
OBJECT_INSTANCE_BEGIN: 139903459454424
          LOCK_TYPE: TABLE
          LOCK MODE: IX
        LOCK_STATUS: GRANTED
          LOCK DATA: NULL
ENGINE: INNODB
      ENGINE_LOCK_ID: 139903578868400:8:4:1:139903459451384
ENGINE_TRANSACTION_ID: 2595
          THREAD ID: 47
           EVENT ID: 15
       OBJECT_SCHEMA: lock_test
        OBJECT_NAME: lock_test
      PARTITION_NAME: NULL
   SUBPARTITION_NAME: NULL
         INDEX NAME: PRIMARY
OBJECT_INSTANCE_BEGIN: 139903459451384
          LOCK TYPE: RECORD
          LOCK_MODE: X, INSERT_INTENTION
        LOCK STATUS: WAITING
          LOCK_DATA: supremum pseudo-record
ENGINE: INNODB
      ENGINE_LOCK_ID: 139903578867504:1065:139903459448472
ENGINE_TRANSACTION_ID: 2594
          THREAD_ID: 46
           EVENT ID: 30
       OBJECT_SCHEMA: lock_test
        OBJECT_NAME: lock_test
      PARTITION_NAME: NULL
   SUBPARTITION_NAME: NULL
         INDEX_NAME: NULL
OBJECT_INSTANCE_BEGIN: 139903459448472
          LOCK_TYPE: TABLE
          LOCK_MODE: IX
        LOCK STATUS: GRANTED
          LOCK DATA: NULL
ENGINE: INNODB
      ENGINE_LOCK_ID: 139903578867504:8:4:1:139903459445432
ENGINE_TRANSACTION_ID: 2594
          THREAD_ID: 46
           EVENT_ID: 30
      OBJECT_SCHEMA: lock_test
        OBJECT_NAME: lock_test
      PARTITION_NAME: NULL
   SUBPARTITION_NAME: NULL
         INDEX_NAME: PRIMARY
OBJECT_INSTANCE_BEGIN: 139903459445432
          LOCK_TYPE: RECORD
          LOCK_MODE: X
        LOCK_STATUS: GRANTED
          LOCK DATA: supremum pseudo-record
```

```
ENGINE: INNODB
     ENGINE_LOCK_ID: 139903578867504:8:4:3:139903459445432
ENGINE_TRANSACTION_ID: 2594
          THREAD_ID: 46
          EVENT ID: 30
      OBJECT_SCHEMA: lock_test
        OBJECT_NAME: lock_test
      PARTITION_NAME: NULL
   SUBPARTITION_NAME: NULL
         INDEX_NAME: PRIMARY
OBJECT_INSTANCE_BEGIN: 139903459445432
          LOCK_TYPE: RECORD
          LOCK MODE: X
        LOCK STATUS: GRANTED
         LOCK DATA: 2
ENGINE: INNODB
     ENGINE_LOCK_ID: 139903578867504:8:4:4:139903459445432
ENGINE TRANSACTION ID: 2594
          THREAD ID: 46
          EVENT ID: 30
      OBJECT SCHEMA: lock test
        OBJECT NAME: lock test
      PARTITION_NAME: NULL
   SUBPARTITION_NAME: NULL
         INDEX_NAME: PRIMARY
OBJECT_INSTANCE_BEGIN: 139903459445432
          LOCK_TYPE: RECORD
          LOCK_MODE: X
        LOCK STATUS: GRANTED
          LOCK DATA: 3
6 rows in set (0.00 sec)
mysql> SELECT * FROM performance schema.data lock waits\G
ENGINE: INNODB
      REQUESTING_ENGINE_LOCK_ID: 139903578868400:8:4:1:139903459451384
REQUESTING ENGINE TRANSACTION ID: 2595
          REQUESTING_THREAD_ID: 47
           REQUESTING_EVENT_ID: 15
REQUESTING_OBJECT_INSTANCE_BEGIN: 139903459451384
       BLOCKING_ENGINE_LOCK_ID: 139903578867504:8:4:1:139903459445432
 BLOCKING_ENGINE_TRANSACTION_ID: 2594
            BLOCKING_THREAD_ID: 46
            BLOCKING_EVENT_ID: 30
 BLOCKING_OBJECT_INSTANCE_BEGIN: 139903459445432
1 row in set (0.00 sec)
※クライアント 1 で実行。COMMIT する。
mysql> COMMIT;
Query OK, 0 rows affected (0.01 sec)
※クライアント2で確認。ロック獲得に成功したので INSERT できた。
Query OK, 1 row affected (24.45 sec)
※クライアント3で実行。クライアント2が獲得したロックが確認できる。
```

```
mysql> SELECT * FROM sys.innodb_lock_waits\G
Empty set (0.00 sec)
mysql> SELECT * FROM performance schema.data locks\G
ENGINE: INNODB
      ENGINE_LOCK_ID: 139903578868400:1065:139903459454424
ENGINE TRANSACTION ID: 2595
          THREAD ID: 47
           EVENT_ID: 15
       OBJECT_SCHEMA: lock_test
         OBJECT_NAME: lock_test
      PARTITION_NAME: NULL
   SUBPARTITION NAME: NULL
         INDEX NAME: NULL
OBJECT INSTANCE BEGIN: 139903459454424
          LOCK TYPE: TABLE
          LOCK_MODE: IX
        LOCK_STATUS: GRANTED
          LOCK_DATA: NULL
ENGINE: INNODB
      ENGINE_LOCK_ID: 139903578868400:8:4:1:139903459451384
ENGINE_TRANSACTION_ID: 2595
          THREAD_ID: 47
           EVENT_ID: 15
       OBJECT_SCHEMA: lock_test
         OBJECT_NAME: lock_test
      PARTITION_NAME: NULL
   SUBPARTITION NAME: NULL
          INDEX NAME: PRIMARY
OBJECT INSTANCE BEGIN: 139903459451384
          LOCK TYPE: RECORD
          LOCK_MODE: X, INSERT_INTENTION
         LOCK_STATUS: GRANTED
          LOCK_DATA: supremum pseudo-record
2 rows in set (0.01 sec)
mysql> SELECT * FROM performance_schema.data_lock_waits\G
Empty set (0.00 sec)
※クライアント 2 で実行。ROLLBACK する。
mysql> ROLLBACK;
Query OK, 0 rows affected (0.00 sec)
※クライアント3で実行。ロックが解消された。
mysql> SELECT * FROM sys.innodb_lock_waits\G
Empty set (0.00 sec)
mysql> SELECT * FROM performance_schema.data_locks\G
Empty set (0.00 sec)
mysql> SELECT * FROM performance schema.data lock waits\G
Empty set (0.00 sec)
```

9.2.2 高速化について

公式リファレンスマニュアル

• https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/performance-schema-optimization.html

ブログ記事等

• https://mysqlserverteam.com/mysql-8-0-performance-schema-now-with-indexes/

9.2.3 新規追加テーブル

公式リファレンスマニュアル

- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/error-summary-tables.html
 エラー要約テーブル
- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/statement-histogram-summary-tables.html
 ステートメントヒストグラム要約テーブル
- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/performance-schema-thread-pool-tables.html
 スレッドプールテーブル (Enterprise 版)
- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/log-status-table.html
 ログステータステーブル
- $\bullet \ \ https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/keyring-keys-table.html$
 - keyring_keys テーブル
- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/clone-status-table.html
 clone_status デーブル
- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/clone-progress-table.html
 - clone progress テーブル

ブログ記事等

- https://yoku0825.blogspot.com/2018/05/mysql-80performanceschemaeventsstatemen.html
 ステートメントダイジェスト
- http://mita2db.blogspot.com/2018/12/mysql-80-events-histgram.html - ヒストグラム
- 著者ブログ
 - $-\ https://qiita.com/hmatsu47/items/075d8c4f19f7d75a605b$
 - * ステートメントダイジェスト
 - $-\ https://qiita.com/hmatsu47/items/2e4f7c4a09e4c6d4efe6$
 - * ヒストグラム

9.2.4 Performance Schema のビルトイン SQL 関数

公式リファレンスマニュアル

- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/performance-schema-functions.html
 - FORMAT_BYTES()

- FORMAT PICO TIME()
- PS_CURRENT_THREAD_ID()
- PS_THREAD_ID()

9.2.5 その他の Performance Schema 変更

公式リファレンスマニュアル

- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/performance-schema-statement-digests.html
 ステートメントダイジェストに QUERY_SAMPLE_TEXT を追加
- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/replication-solutions-rbr-monitoring.html
 行ベースレプリケーションのモニタリング
- $\bullet \ \ https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/replication-applier-status-by-worker-table.html$
 - APPLYING_TRANSACTION・APPLYING_TRANSACTION_START_APPLY_TIMESTAMP など

9.3 その他の変更と新機能

9.3.1 SHOW ステートメント

公式リファレンスマニュアル

- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/show-columns.html
 - The optional EXTENDED keyword causes the output to include information \cdots
 - SHOW EXTENDED COLUMNS (隠しカラムの表示)
- https://dev.mysgl.com/doc/refman/8.0/en/show-index.html
 - $\lceil \mathrm{MySQL}$ 8.0.13 and higher supports functional key parts $\cdots \rfloor$
 - SHOW INDEX に表示される情報の追加

9.4 リンク集 URL



図 9.1: https://hmatsu47.hatenablog.com/book_mysql80_091

第 10 章

その他の変更と新機能

第9章までに触れなかった MySQL 8.0 の変更点と新機能について簡単に紹介しておきます。

10.1 リソースグループ

MySQL サーバのスレッドが使用するリソース(CPU コアなど)に制限を掛ける機能です。

公式リファレンスマニュアル

• https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/resource-groups.html

ブログ記事等

- https://www.s-style.co.jp/blog/2018/09/2549/
- http://mita2db.blogspot.com/2017/09/mysql-80.html
- http://mita2db.blogspot.com/2019/05/resource-group_6.html

10.2 DML の新機能

10.2.1 ORDER BY 句/ DICTINCT 句と WITH ROLLUP の併用・GROUPING()

公式リファレンスマニュアル

- $\bullet \ \ https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/group-by-modifiers.html$
- $https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/miscellaneous-functions.html \# function_grouping$

ブログ記事等

- https://mysqlserverteam.com/improvements-to-rollup-in-mysql/
- https://yakst.com/ja/posts/4564
- https://yoku0825.blogspot.com/2017/04/mysql-801grouping.html

10.2.2 LATERAL 句

公式リファレンスマニュアル

• https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/lateral-derived-tables.html

ブログ記事等

- https://mysqlserverteam.com/support-for-lateral-derived-tables-added-to-mysql-8-0-14/
- http://mita2db.blogspot.com/2019/04/mysql-8-lateralsql.html
- https://tombo2.hatenablog.com/entry/2019/03/21/210806
- 著者ブログ
 - https://qiita.com/hmatsu47/items/040d65d118d0ecec6381

10.2.3 派生(Derived)テーブルからの外部テーブル参照

公式リファレンスマニュアル

- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/derived-tables.html
 - Prior to MySQL 8.0.14, a derived table cannot contain outer references. ...

ブログ記事等

 $\bullet \ \, \text{https://mysqlserverteam.com/supporting-all-kinds-of-outer-references-in-derived-tables-lateral-or-not/} \\$

10.3 関数の変更と新機能

10.3.1 正規表現関数

利用ライブラリが ICU(International Components for Unicode)に変わるとともに、新しい正規表現関数が追加されました。

公式リファレンスマニュアル

- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/regexp.html
 - REGEXP_INSTR
 - REGEXP_LIKE
 - REGEXP_REPLACE
 - REGEXP_SUBSTR

ブログ記事等

- https://www.s-style.co.jp/blog/2018/09/2519/
- https://yoku0825.blogspot.com/2018/01/mysql-804mysql.html
- https://yoku0825.blogspot.com/2018/02/mysql-804regexpsubstr-regexpinstr.html

- https://yoku0825.blogspot.com/2018/04/vs-mysql-80.html
 - 危険な正規表現

10.3.2 STATEMENT_DIGEST() / STATEMENT_DIGEST_TEXT()

SQL ステートメントの正規化 (Normalize) を行う関数です。

公式リファレンスマニュアル

- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/encryption-functions.html# function statement-digest
- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/encryption-functions.html# function statement-digest-text

ブログ記事等

- $\bullet \ \ https://yoku0825.blogspot.com/2018/04/mysql-80 statement digestsql.html$
- 著者ブログ
 - https://hmatsu47.hatenablog.com/entry/2018/04/19/230021

10.3.3 その他の関数

UUID 関数

- $\bullet \ \ https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/miscellaneous-functions.html$
 - UUID TO BIN · BIN TO UUID · IS UUID

BLOB 列に対するビット処理

• https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/bit-functions.html

10.4 その他各種新機能

10.4.1 Query Rewrite プラグイン

Query Rewrite プラグインの書き換え対応(INSERT・UPDATE・DELETE)

- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/rewriter-query-rewrite-plugin.html
- 著者ブログ
 - $-\ https://qiita.com/hmatsu47/items/a43db9fb8c0504f15a79$

10.4.2 新しいメモリ内テンポラリテーブルストレージエンジン

- $\bullet \ \ https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/internal-temporary-tables.html$
 - ¬Presence of a BLOB or TEXT column in the table. However, the TempTable · · · J
- http://nippondanji.blogspot.com/2018/06/temptable.html

• https://mysqlserverteam.com/mysql-8-0-support-for-blobs-in-temptable-engine/

10.4.3 エラーロギング

新しいエラーロギングインフラストラクチャ/エラーロギングの改善

- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/error-log-component-configuration.html
- https://www.s-style.co.jp/blog/2018/07/2061/
- http://variable.jp/2018/03/14/mysql8-0-%E3%82%A8%E3%83%A9%E3%83%BC%E3%83%AD%E3%82%B0%E3%81%AE%E8%A8%AD%E5%AE%9A/
- $https://yoku0825.blogspot.com/2018/01/mysql-804_25.html$
- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/error-log.html
- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/error-log-format.html
- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/server-system-variables.html# sysvar_log_error_verbosity
 - デフォルト変更:log_error_verbosity=2
- $\bullet \ \ https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/error-log-filtering.html$
 - エラーログのフィルタリング
- $\bullet \ https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/error-log-json.html$
 - JSON 形式のエラーログ
- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/server-system-variables.html# sysvar_log_error_suppression_list
 - WARNINGS・NOTE のエラーログを抑制

サーバエラーメッセージ

• https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/server-error-reference.html

10.4.4 ログ関連(エラーログ以外)

syslog・eventlog 関連のシステム変数をコンポーネント変数に指定

 https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/server-system-variables.html# sysvar_syseventlog.facility

スロークエリログへの log-slow-extra の追加

• https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/server-system-variables.html# sysvar_log_slow_extra

監査ログフィルタ:ルールベースの条件でクエリを中断(Enterprise 版)

- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/audit-log-filtering.html
 - Filter rules have the capability of blocking (aborting) execution of …」

監査ログの JSON 形式化・圧縮・暗号化(5.7.21 と同様/ Enterprise 版)

- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/audit-log-file-formats.html
- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/audit-log-logging-configuration.html #audit-log-file-encryption-old
 - 8.0.17 での暗号化機能の改良について、8.0.16 以前との比較
- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/audit-log-reference.html# udf_audit-log-encryption-password-get
 - audit_log_encryption_password_get()
- $https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/audit-log-reference.html \# sysvar_audit_log_password_history_keep_days$
 - audit_log_password_history_keep_days

監査ログにデータを挿入するための SQL 関数

• https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/audit-api-message-emit.html

データマスキング機能(5.7.24 と同様/ Enterprise)

• https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/data-masking.html

10.4.5 その他の変更と新機能

クエリキャッシュの廃止

• https://yakst.com/ja/posts/4612

オンディスクテンポラリテーブルストレージエンジン

- $\bullet \ \ https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/internal-temporary-tables.html$
 - InnoDB のみ利用可能に (MyISAM 廃止)

255 文字までのホスト名に対応

• GRANT・CHANGE MASTER TO (いずれも既出)・SHOW PROCESSLIST・各種ログなど

キャスト関数・オペレータ(演算子)の拡張

• https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/cast-functions.html

非推奨 (Deprecated) となった関数・演算子など (8.0.17)

- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/numeric-type-overview.html
 - FLOAT(M,D)・DOUBLE(M,D)、ZEROFILL 属性、FLOAT・DOUBLE・DECIMAL に付加する UNSIGNED 属性
- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/numeric-type-attributes.html
 - FLOAT・DOUBLE カラムに対する AUTO_INCREMENT

- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/string-type-overview.html
 文字列データ型における BINARY 属性
- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/logical-operators.html
 一論理演算子「&&」・「!!」・「!!
- $\bullet \ https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/information-functions.html\\$
 - SQL_CALC_FOUND_ROWS, FOUND_ROWS()

INTO OUTFILE・INTO DUMPFILE で生成するファイルのパーミッションを 0640 に

- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/select-into.html
 - √As of MySQL 8.0.17, the umask for file creation is 0640; ⊥

新しいバックアップロック

• https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/lock-instance-for-backup.html

サーバ側キーリング移行ツール

 $\bullet \ \ https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/keyring-key-migration.html$

AWS KMS 用のキーリングプラグイン(5.7.19 と同様)

• https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/keyring-aws-plugin.html

復旧/切り離された準備済み XA トランザクションの MDL ロック有効化

外部キーのためのメタデータロックのサポート

- https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/lock-tables.html
 - ∫ If you lock a table explicitly with LOCK TABLES, any tables related by …

The LOCK ORDER Tool

• https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/lock-order-tool.html

SSL チェックを効率化するための--ssl-mode クライアントオプション

 https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/connection-options.html# option general ssl-mode

サービスレジストリとコンポーネントインフラストラクチャ

 $\bullet \ \ https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/server-components.html$

レプリケーションストリームを読み取るための C API

• https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/c-api-binary-log-function-overview.html

非同期 C API

https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/c-api-asynchronous-interface.html
 mysql プロトコルを利用した非同期 API

UDF 自動登録コンポーネントのための UDF 登録サービス

• https://dev.mysql.com/doc/dev/mysql-server/latest/ structs_mysql_udf_registration.html

MySQL サーバー文字列コンポーネントサービス

• https://dev.mysql.com/doc/dev/mysql-server/latest/mysql__string_8h.html

結果セットのメタデータ転送オプション

• https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/c-api-optional-metadata.html

コンポーネント用のステータス変数サービス

• https://dev.mysql.com/doc/dev/mysql-server/latest/ structs__mysql__status__variable__registration.html

プラグインがプリペアドステートメントを使えるように

• https://dev.mysql.com/worklog/task/?id=8413

ソートバッファの動的割り当て

• https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/order-by-optimization.html# order-by-filesort

NO PAD 照合順序(COLLATION)用の可変長ソートキー

• https://dev.mysql.com/worklog/task/?id=9554

lower_case_table_names の有効化に debconf-set-selections を利用

• https://dev.mysql.com/doc/refman/8.0/en/server-system-variables.html# sysvar_lower_case_table_names

ソースコードの改善

• https://mysqlserverteam.com/mysql-8-0-source-code-improvements/

10.5 リンク集 URL



おわりに

The complete list of new features in MySQL 8.0 (MySQL Server Blog)

• https://mysqlserverteam.com/the-complete-list-of-new-features-in-mysql-8-0/

この記事をもとに MySQL~8.0.15 までの変更と新機能を把握し、公式リファレンスマニュアルで確認した MySQL~8.0.16 以降の変更点を加えて本書を完成させました。

今後もバージョンアップに合わせて内容を加筆修正していく予定です。

なお、本文中では特に触れませんでしたが、以下のサイトに有用な情報が多数掲載されていますので、ご確認ください。

本家 MySQL.com の資料ダウンロードサイト

• https://www.mysql.com/jp/news-and-events/seminar/downloads.html

スマートスタイル TECH Blog

• https://www.s-style.co.jp/blog/tag/mysql8-0/

MySQL 道普請便り

 $\bullet \ \, http://gihyo.jp/dev/serial/01/mysql-road-construction-news$

漢のコンピュータ道*1

• http://nippondanji.blogspot.com/

日々の覚書

• https://yoku0825.blogspot.com/

MySQL Weekly

• https://mysql-weekly.hatenablog.com/

リンク集 URL



 \boxtimes 2: https://hmatsu47.hatenablog.com/book_mysql80_Z01

 $^{^{*1}}$ 奥野幹也さんが MySQL 8.0 についても書籍を出されるという未確認情報もあります。期待!

索引

account-host, 73	CREATE SPATIAL REFERENCE SYSTEM, 63
report-host, 73	CREATE TABLESPACE, 38
skip-grant-tables, 26	CREATE UNDO TABLESPACE, 85
skip-networking, 26	CTE, 41
ssl-mode, 104	CUME_DIST(), 45
.isl ファイル, 87	
/etc/my.cnf, 65	DB ポータビリティ, 87
loose 接頭辞, 14	DDL, 18, 31
「!」,104	debconf-set-selections, 105
「&&」,104	DECIMAL, 103
「 」,104	Dedicated Server Mode, 13
11 /	DELETE, 86
ACL ステートメント, 26	DENSE_RANK(), 45
ADD DATAFILE, 38	Deprecated, 103
ALTER INSTANCE, 65	Derived, 100
ALTER TABLE, 31	DICTINCT 句, 99
ALTER UNDO TABLESPACE, 85	DML, 99
ALTER USER, 26	DOUBLE(M,D), 103
ALTER USER \sim IDENTIFIED WITH, 25	DROP ROLE, 28
Applier 統計, 72	DROP SPATIAL REFERENCE SYSTEM, 63
APPLYING_TRANSACTION, 98	DROP UNDO TABLESPACE, 85
audit_log_encryption_password_get(), 103	,
audit_log_password_history_keep_days, 103	Election, 70
Auto-Completion, 75	eventlog, 102
auto.cnf, 66	EXISTS, 86
AUTO_INCREMENT 値, 83	EXPLAIN EXTENDED, 86
AUTO_INCREMENT, 103	,
AWS KMS, 104	FIRST_VALUE(), 45
	FLOAT(M,D), 103
BIN_TO_UUID, 101	FORCE INDEX, 80
BINARY 属性, 104	FORMAT_BYTES(), 97
bind-address, 19	FORMAT PICO TIME(), 97
binlog-row-event-max-size, 77	FOUND_ROWS(), 104
BLOB 列, 101	_
BSON データ, 54	Generated Column, 36
	Geographic R-tree インデックス, 60
Caching sha2 authentication プラグイン, 23	Geography, 57
CATS, 86	GeoJSON, 63
CentOS 7, 9	GeoJSON オブジェクト, 58
Centralized Help System, 75	GIS 機能, 57
CHANGE MASTER TO, 76	GRANT TABLE, 26
CHECK TABLE, 82	GRANT ステートメント, 26
CHECK 制約, 38	GROUP BY, 44, 49
Clone Plugin, 74	GROUPING(), 99
clone_progress テーブル, 97	GTID, 76
clone_status テーブル, 97	GTID_EXECUTED, 76
COLLATION, 20	GTID_PURGED, 76
Collection.find().where(), 54	
Collection.modify().where(), 54	HTTP サーバプラグイン, 73
Collection.remove().where(), 54	
COLUMN_STATISTICS, 90	I/O コスト, 80
Command Line History Persistence, 75	ICU, 100
Common Table Expressions, 41	IN, 86
Connector, 51	INDEX_MERGE, 80
CONSTRAINT_TYPE 列, 38	Information Schema, 89
Continuous Delivery Model, 4	InnoDB, 18
CPU コア, 99	InnoDB Cluster, 68, 72, 74

ı	
innodb-dedicated-server, 13	MBRCovers(), 58
innodb_buffer_pool_size, 13	MBRDisjoint(), 58
INNODB_CACHED_INDEXES, 90	MBREquals(), 58
innodb_flush_method, 13	MBRIntersects(), 58
innodb_log_file_size, 13	MBROverlaps(), 58
innodb_log_files_in_group, 13	MBRTouches(), 58
INNODB_TABLESPACES, 90	MBRWithin(), 58
InnoDB ロック, 90	MEMBER OF(), 49
InnoDB ロック関連テーブル, 90	MERGE, 80
INPLACE, 38	Minimum Bounding Rectangle, 57
INSERT, 86	Multi-Valued Indexes, 55
International Components for Unicode, 100	MultiLineString, 58
INTO DUMPFILE, 104	MultiPoint, 58
INTO OUTFILE, 104	MultiPolygon, 58
Invisible Index, 33	MySQL Connector/J 8.0, 52
IPv6, 71	MySQL Native Password プラグイン, 23
IS_UUID, 101	MySQL Router, 72
15_0015, 101	
T 4	MySQL Server Blog, 3, 107
Java, 4	MySQL Server Team, 3
Java 8, 52	MySQL Shell, 14, 74
JavaScript, 4	MySQL Workbench, 60
JOIN_FIXED_ORDER, 81	mysql.role_edges, 28
JOIN_ORDER, 81	MYSQL_SESSION_ADMIN 権限, 26
JOIN_PREFIX, 81	mysql_secure_installation, 12
JOIN_SUFFIX, 81	mysqlbinlog, 77
JSON_ARRAYAGG(), 49	mysqld_safe, 20
JSON_MERGE(), 49	mysqldump, 14
JSON_MERGE_PATCH(), 49	mysqlrouter_plugin_info ツール, 73
JSON_MERGE_PRESERVE(), 49	J - 4
JSON_OBJECTAGG(), 49	NO PAD 照合順序, 105
JSON_OVERLAPS(), 49	
	NO_INDEX_MERGE, 80
JSON_PRETTY(), 49	NO_MERGE, 80
JSON_SCHEMA_VALID(), 49	NO_SEMIJOIN, 81
JSON_SCHEMA_VALIDATION_REPORT(), 49	Normalize, 101
JSON_STORAGE_FREE(), 49	NOWAIT, 82
JSON_STORAGE_SIZE(), 49	NTH_VALUE(), 45
JSON_TABLE(), 49	NTILE(), 45
JSON 関数, 49	
JSON 形式, 102, 103	OpenSSL, 27
JSON ドキュメント, 49	Oracle, 4
JSON 配列, 49	Oracle シングル・サインオンアカウント, 14
JSON パス表現, 54	ORDER BY 句, 99
JSON 列, 76	ORM, 36
,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	,
keyring_keys テーブル, 97	Parallel Table Import Utility, 74
KEYWORDS, 89	
KET WOILDS, 69	PERCENT_RANK(), 45
T A C() 4F	Performance Schema, 72, 90
LAG(), 45	Pluggable Password Store, 74
LAST_VALUE(), 45	Point Set, 58
LATERAL 句, 100	Point 值, 58
LDAP 認証プラグイン, 26	Polygon 値, 58
LEAD(), 45	print_identified_with_as_hex, 26
LIKE 検索, 85	Prompt Themes, 75
LineString, 58	PS_CURRENT_THREAD_ID(), 98
LOB 列, 86	PS_THREAD_ID(), 98
LOCK TABLES, 38	= = 07
log-slow-extra, 102	Query Rewrite プラグイン, 101
log_error_verbosity, 102	QUERY_SAMPLE_TEXT, 98
lower_case_table_names, 105	QUEITE BRINI BE TERT, 30
iower_case_table_names, 100	DANK() 45
mandatowy valos 27	RANK(), 45
mandatory_roles, 27	Redo ログ, 83
Master, 65	Redo ログアーカイブ, 86
MASTER_HOST, 76	Redo ログ暗号化, 83
max_connect_errors, 73	REFERENCES 権限, 25
MBR, 57	REGEXP_INSTR, 100
MBRContains(), 58	REGEXP_LIKE, 100
MBRCoveredBy(), 58	REGEXP_REPLACE, 100

	I .
DECEVD CUDCED 100	CTART CLAVE INTIL 77
REGEXP_SUBSTR, 100	START SLAVE UNTIL, 77
RENAME TABLE, 38	STATEMENT_DIGEST(), 101
REPLACE, 86	STATEMENT_DIGEST_TEXT(), 10:
RESET MASTER TO, 76	super_read_only, 70
RESET PERSIST ステートメント, 39	SUPER 権限, 25
REST API, 73	syslog, 102
	-38,
RESTART ステートメント, 39	
REVOKE, 26	TABLE_CONSTRAINTS テーブル, 38
ROLE, 27	TDE, 83
routing_strategy, 73	Temporary Capture Files, 65
ROW_NUMBER(), 45	The ddl_rewriter Plugin, 39
	The LOCK_ORDER Tool, 104
SDI, 86	TLS 1.3, 20, 27
SELECT \sim FOR UPDATE, 82	TTL, 73
SELECT COUNT(*), 82	
SEMIJOIN, 81	UDF, 105
server-uuid, 66	Undo ログ, 83
SERVER_VERSION, 90	Undo ログ暗号化, 83
SET PASSWORD, 26	Unicode, 21
SET PERSIST_ONLY ステートメント, 39	Unicode 9.0, 20
SET PERSIST ステートメント, 39	UNSIGNED 属性, 103
SET_VAR, 81	UPDATE, 86
SET ステートメント, 39	Upgrade Checker, 14, 15
Shell プラグイン構造, 74	use_invisible_indexes, 33
SHOW EXTENDED COLUMNS, 98	utf8mb4, 20, 21
SHOW INDEX, 98	utf8mb4_0900_bin, 21
SHOW PROCESSLIST, 103	
	UUID_TO_BIN, 101
SHOW ステートメント, 98	UUID 関数, 101
SHUTDOWN 権限, 39	
SHUTDOWN ステートメント, 39	VIEW_ROUTINE_USAGE, 89
SKIP LOCKED, 82	VIEW_TABLE_USAGE, 89
Skip Scan Range Access Method, 81	
Slave, 65	Well-Known Binary, 57
	- ·
Spatial Data, 57	Well-Known Text, 57
Spatial Index, 57, 60	WGS84, 61
Spatial 関数, 57	Window Function, 44
SQL_CALC_FOUND_ROWS, 104	· ·
	WITH RECURSIVE, 41
sql_mode, 18	WITH ROLLUP, 99
sql_require_primary_key, 37	WITH 句, 41
SQL ステートメント, 101	WKB, 57
SRID, 57, 60	WKT, 57
SSL/TLS ライブラリ, 27	
ST_Area(), 58	X DevAPI, 51, 75
ST_Contains(), 58	XA トランザクション, 87, 104
ST_Crosses(), 58	X プラグイン, 51
ST_Disjoint(), 58	
ST_Distance(), 58	yaSSL, 27
ST_Distance_Sphere(), 58	yabbi, 21
ST_Equals(), 58	ZEROFILL 属性, 103
ST_GEOMETRY_COLUMNS, 90	·
ST_Intersects(), 59	
	アクティブパスワード, 25
ST_IsSimple(), 59	アップグレード, 15
ST_IsValid(), 59	アップグレードインストール, 14
ST_Latitude(), 59	
ST_Length(), 57, 59	アトミック, 26, 38
	アプリケーション, 14
ST_Longitude(), 59	暗号化, 65, 103
ST Overlaps(), 59	アンチジョイン,86
ST_SPATIAL_REFERENCE_SYSTEMS, 90	
	暗黙の GROUP BY ソート, 81
ST_SRID(), 59	
ST_SwapXY(), 60	一時テーブル, 41
ST_Touches(), 60	
ST_Transform(), 60	一般テーブルスペース, 83
	一般テーブルスペース暗号化, 83
ST_UNITS_OF_MEASURE, 90	インスタント DDL, 31
ST Validate(), 60	
ST_Within(), 60	インストール, 9
	インデックス, 33, 35, 36, 54, 79
ST_X(), 60	インデックス走査, 80
ST_Y(), 60	インデックスダイブ, 80
****	1 コマノフノハハコン,00

インプレース,55 高可用性, 68 インプレースアップグレード, 14, 18 降順インデックス,35 インポート,54 高速ソート,55 互換性, 15 ウィンドウ関数, 44 コスト係数,80 ウィンドウフレーム, 45 コマンドライン実行, 75 上書きインストール, 14 コマンド履歴, 75 コンポーネントインフラストラクチャ, 104 永続化, 73, 75, 83 コンポーネント変数、102 エラー, 15 エラー要約テーブル,97 サーバエラーメッセージ, 102 サーバ再起動、39 エラーロギング, 102 サーババージョン,77 演算子, 103 サービスレジストリ, 104 再帰的, 41 オブジェクト関係マッピング, 36 オプティマイザ, 33, 79 最小外接矩形,57 最小境界矩形,57 オプティマイザトレース,85 オフライン,87 シェープファイル, 63 オペレータ, 103 オンライン,70 シェル API, 75 オンラインアップデート,71 ジオハッシュ値,58 オンラインディスクスペース,87 ジオメトリ,58 ジオメトリコレクション. 58 式インデックス,36 回転楕円体,57 外部キー, 104 システムテーブル,83 システムテーブル暗号化,84 外部キー制約、25 システム変数, 102 書き換え, 101 実行計画,79 書き込み許可,70 自動設定, 13 隠しカラム,98 カスタマイズ, 75 自動ノードプロビジョニング,69 自動プロビジョニング,71 可変長ソートキー、105 自動補完、75 カラムタイプ,75 カラム値, 79 絞り込み, 79 シャットダウン, 70 監査ログ、103 集計,44 監査ログフィルタ, 102 重心, 58 関数, 103 集約関数,44 関数インデックス,36 主キー,54 管理 API, 74 管理専用ポート、19 主たる SQ, 41 順位, 45 管理用 SQL, 39 照合順序,20 冗長化,69 キーリング, 104 キーリング用プラグイン,65 シリアライズ辞書情報、86 キーワード,20 シングルプライマリ,70 起動オプション、13 キャスト関数, 103 スキャンバッファ,85 スクリーンページング, 75 ギャップ, 45 ステータス変数, 105 キャラクタセット, 20 ステートメントダイジェスト, 97, 98 共通テーブル式, 41 共有テーブル領域,87 ステートメントヒストグラム要約テーブル,97 ストレージエンジン, 85, 101, 103 スレッド,99 クエリキャッシュ, 103 スレッドプールテーブル, 97 区間,44 スロークエリログ, 102 行削除,83 行ベースレプリケーション, 98 正規化, 101 行ロック,82 組み込みヘルプ, 75 正規表現,21 クリエイティブ・コモンズ、3 正規表現関数,100 グループレプリケーション, 69 生成列 36 クローンプラグイン, 69, 74 セキュアセッション変数, 26 セキュリティ, 27 セミジョイン,86 継続提供モデル、4 結果セット, 105 ソースコード、105 権限の付与,27 検索条件,81 ソートバッファ, 105

測地系, 61

コアファイル,87

多角形領域, 58 ダンプファイル, 15

遅延レプリケーション, 77 チャネルフィルタ, 75 地理座標系, 57 地理情報, 57 地理情報システム, 57

ディスク、80 データディクショナリ、18、89 データディレクトリ、66 データページ、80 データマスキング機能、103 テーブルスペース、83、86 デッドロック、87 デフォルトロール、27 テンポラリテーブル、76、87、101、103

問い合わせ、41 透過的暗号化、65、83 動的リンク、27 動的割り当て、105 ドキュメントストア、51 凸包、58 トランザクション、18、76、83 トランザクション依存関係追跡、76 トランザクションセーブポイント、72 トランザクションセーブポイント、72

内部ジオメトリ形式,58

認証プラグイン, 14, 23 認証を遅延, 26

ノンブロッキング,76 ノンロッキング並列読み取り,82

パージ,87 バージョン管理,86 パーセントランク値, 45 パーティション, 45 パーティションテーブル,87 パーミッション, 104 バイナリ表記, 49 バイナリログ, 38, 65, 76, 83, 84 バイナリログキャッシュサイズ,77 バイナリログ有効期限, 68 パスワード, 23, 25, 26 パスワード管理, 74 派生テーブル, 100 バックアップ, 14 バックアップロック, 104 バッファプール,80,87 バッファ容量, 13 パフォーマンス, 23 パラレルスキャン,82 パラレルテーブルインポートユーティリティ,74

非公式 MySQL 8.0 オプティマイザガイド, 79 非公式 Upgrade Checker, 18 非推奨, 103 ヒストグラム, 97 ヒストグラム統計, 79 必須ロール, 27 ビット処理, 101 非同期 C API, 105 表示 - 継承 4.0 国際 ライセンス, 3 ヒント句, 80

フィルタリング, 102 不可視インデックス, 33 複合インデックス, 81 複数値インデックス, 55 複数バージョン, 15 部分アップデート, 76 部分のな権限の取り消し, 26 プライマリ切り替え/選出, 70 プライマリフェイルオーバ, 70 プラグイン, 105 プリペアドステートメント, 105 ブルートフォース攻撃, 26 フロー制御, 71 プロンプト, 75 分割, 44

並列読み取り, 82 変更キャプチャファイル, 65

ホスト名, 103 ホワイトリスト, 71

マルチスレッドレプリケーション, 77 マルチソースレプリケーション, 75 マルチプライマリ, 70

メタデータ、31、76、105 メタデータキャッシュ、73 メタデータロック、104 メッセージングパイプライン、71 メモリ、80

文字列データ型, 104 モニタリング, 72, 98

ユーザアカウント, 25 優先順位, 70

予約語, 20

ライブラリ, 21, 100 ラッチ, 86

リカバリ、38 リストア、14、15 リソース、99 リソースグループ、99 リレーログ、65、83、84

累積分布値, 45 ルーティングストラテジ, 73 ルールベース, 102

レプリケーション, 15, 65レプリケーションストリーム, 105レプリケーションモニタリング, 76

ロール、27 ロールの切り替え、27 ロールバック、83、87 ログイン、26、27 ログステータステーブル、97 ロック、82 ロックスケジューラ、86 論理演算子、104

MySQL 8.0 の薄い本

2019年4月13日 初版第1刷 発行 2019年5月2日 第2版第1刷 発行 2019年5月26日 第2版第2刷 発行 2019年8月8日 第3版第1刷 発行 著 者 hmatsu47